

履
修
要
綱

2018(平成30)年度入学生

● 共通教育科目群の履修について

ベシク・スキル、リベラルアーツ、情報リテラシー及びキャリアデザインから、必ず卒業に必要な単位数以上を修得してください。

授業科目	卒業要件単位	備 考
必修科目	10単位	ベシク・スキル
選択科目	10単位	リベラルアーツから10単位以上修得すること。 情報リテラシー及びキャリアデザインでの修得単位は、「その他修得単位」として認定。 留学生については、日本語コミュニケーションの修得単位を認定することができる。 (ただし、外国語必修科目に代えた修得単位は認定することができない。)
計	20単位	

語句の説明

必修……………必ず履修し、単位を修得しなければならない科目

選択……………自由に選択、履修できる科目

配当年次……………表中「1」とあるのは、1年次に履修できる科目という意味で、「2」「3」「4」であれば1年次生は履修できません。

「春」……………春学期（4月～9月）開講科目

「秋」……………秋学期（10月～翌3月）開講科目

「集中」……………上記のような期間を設けず、短期間に集中的に行う授業
(履修登録時に日程表を配布します。)

2018年度入学生 共通教育科目群カリキュラム

資格取得における必修科目は○、選択科目は○
※網掛けは本年度の配当年次科目を表す。

授業科目名	単位		配当年次	学期	教免	保	社	日	備考
	必修	選択							
ベシック・スキル (10単位)	基礎演習Ⅰ	1	1	春					注①
	基礎演習Ⅱ	1	1	秋					注①
	健康行動学	2	1	春・秋	○	○			
	情報基礎Ⅰ	2	1	春	○				
	総合英語Ⅰ	1	1	春	○	○			
	総合英語Ⅱ	1	1	秋	○	○			
	Interactive EnglishⅠA	1	1	春					1単位選択必修 注②
	Interactive EnglishⅠB	1	1	春					
	Interactive EnglishⅡA	1	1	秋					
	Interactive EnglishⅡB	1	1	秋					

授業科目名	単位		配当年次	学期	教免	保	社	日	備考
	必修	選択							
情報リテラシー	情報基礎Ⅱ	2	1	秋					
	情報処理演習A	2	2						人数制限をする場合がある
	情報処理演習B	2	2						人数制限をする場合がある
	情報処理演習C	2	2						人数制限をする場合がある
	情報と社会	2	2					○	日本語教員(副)は選択科目
	情報科学	2	1	春					

授業科目名	単位		配当年次	学期	教免	保	社	日	備考
	必修	選択							
キャリアデザイン	キャリア探求Ⅰ	2	1	秋					
	キャリア探求Ⅱ	2	2						
	キャリアアップA	2	3						
	キャリアアップB	2	3						
	キャリアアップC	2	4						
	インターンシップA	1	2						
	インターンシップB	1	2						
	海外インターンシップ	2	2						

授業科目名	単位		配当年次	学期	教免	保	社	日	備考
	必修	選択							
外国語コミュニケーション	Interactive EnglishⅢ	1	2					○	
	Interactive EnglishⅣ	1	2					○	
	Face to Face English	1	1	秋					
	留学英語Ⅰ	1	1	春					本年度不開講
	留学英語Ⅱ	1	1	春					
	フランス語Ⅰ	1	1	春					
	フランス語Ⅱ	1	1	秋					
	フランス語Ⅲ	1	2						
	フランス語Ⅳ	1	2						
	ドイツ語Ⅰ	1	1	春					
	ドイツ語Ⅱ	1	1	秋					
	ドイツ語Ⅲ	1	2						
	ドイツ語Ⅳ	1	2						
	中国語Ⅰ	1	1	春					
	中国語Ⅱ	1	1	秋					
	中国語Ⅲ	1	2						
	中国語Ⅳ	1	2						
	韓国朝鮮語Ⅰ	1	1	春					
	韓国朝鮮語Ⅱ	1	1	秋					
	韓国朝鮮語Ⅲ	1	2						
韓国朝鮮語Ⅳ	1	2							
リベラルアーツ(10単位以上)	文化の中の人間	2	1	秋					
	心理学概論	2	1	春			○	○	
	日本史	2	1	秋				○	
	東洋史	2	1	春				○	
	西洋史	2	1	秋					
	文学と文化	2	2						
	現代社会と市民	2	1	春					
	社会学	2	1	春			○	○	
	日本国憲法	2	1	秋		○			
	政治学	2	1	春					
経済学	2	1						本年度不開講	
現代と金融 人権問題	2	2							
人類と環境	地球環境	2	2						
	環境教育論	2	2				○		
	人間と自然	2	1	春					
	人間共生論 防災・安全教育	2	3						
らまのこ社会	家族社会学	2	1	春					
	女性学	2	1	春・秋				○	
	少子社会	2	2						
生命と自然	基礎体育学	1	1	春・秋	○	○			注③
	物理学	2	1						本年度不開講
	生物学	2	1	春					
	栄養学	2	1	秋					
	数学	2	1						本年度不開講
多文化を生きる	地理学	2	1	秋					
	神戸学	2	2						
	多文化社会	2	2					○	
	国際理解教育論	2	2				○	○	
	海外英語研修	4	1	集中				○	
	アジア文化研修	2	1	集中					

授業科目名	単位		配当年次	学期	教免	保	社	日	備考
	必修	選択							
日本語コミュニケーション(留学生)	日本語Ⅰ	1	1	春					注④ 外国人学部 留学生対象
	日本語Ⅱ	1	1	春					
	日本語Ⅲ	1	1	秋					
	日本語Ⅳ	1	1	秋					
	日本語Ⅴ	1	2						
	日本語Ⅵ	1	2						
	日本語Ⅶ	1	2						
	日本語Ⅷ	1	2						
	日本語能力試験Ⅰ	1	1	春					
	日本語能力試験Ⅱ	1	1	春					
	日本語能力試験Ⅲ	1	1	秋					
	日本語能力試験Ⅳ	1	1	秋					
	日本事情Ⅰ	2	2						
	日本事情Ⅱ	2	2						

注① 基礎演習の担当者については、履修登録時に配布するクラス編成表に記載しています。
注② グレード別のクラスになります。年度初めにTOEIC IPを実施し、その成績により受講科目を決定します。
注③ 「基礎体育学」の履修に際し、健康上の理由等で運動の制限が必要となる場合、集中講義欄の基礎体育学を履修してください。ただし、その場合医師の診断書が必要です。
注④ 留学生は、学則第7条に定める共通教育科目群外国語必修科目に代えて、履修することができます。「神戸親和女子大学外国人学部留学生の履修に関する内規」(本誌254頁)を参照してください。

● 総合文化学科専門教育科目群の履修について

卒業要件

群	授業科目	卒業要件単位	備 考
共通教育科目	必修科目	10単位	p.40参照
	選択科目	10単位	p.40参照
専門教育科目	必修科目	36単位	基本科目18単位 演習科目18単位
	選択科目	38単位以上	基幹科目、発展科目、キャリア支援科目及び留学生支援科目（留学生のみ）から38単位以上修得すること
免許資格科目・その他科目	選択科目	30単位以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・ 卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・ 各学科提供科目 } エクステンション科目 p.52参照 ・ 資格等科目 ・ 本学通信教育部での修得単位 ・ 留学による修得単位※① ・ 協定大学での修得単位※①

※①認定限度単位数については、「神戸親和女子大学単位認定取扱要領」（本誌253頁）を参照してください。

コース説明

どのコースに進んでも、他コースの科目を自由に選択することができます。（専門演習を除く）

- ①日本語・日本文学コース：世界的な視野から日本語と日本文学をとらえ、伝統文化と現代文化のかかわりを学びます。また、外国人に日本語を教えるために、理論的、実際の訓練として日本語教授法や海外日本語教育実習などのプログラムを用意しています。
- ②英語・国際文化コース：幅広い角度から、文化（ヨーロッパ・アメリカ・アジア）を国際的な視野で学び、21世紀の国際化時代に生きる真の国際人の育成に努めます。また、国際的な場で活躍するために必要なコミュニケーションの手段として英語力を高めます。
- ③神戸・地域文化コース：現代的な視点から神戸や兵庫県の文化、伝統、産業を見直し、地域の特性と可能性を追究します。また、マスコミ学やビジネスの基本を学び、社会人として必要な問題解決力を開発し、企画力や実践力を身につけます。

2018年度入学生 総合文化学科専門教育科目群カリキュラム

免許・資格取得における必修科目は○、選択科目は○
※網掛けは本年度の配当年次科目を表す。

授業科目名	単位	配当年次	学期	教免(英)	教免(国)	日本語(主)	日本語(副)	備考	
									必修
基本科目 (18単位) 必修科目 (36単位)	TOEIC (Listening) I	1	1	秋				注①	
	TOEIC (Reading) I	1	1	春				注①	
	文学概論 (日本)	2	1	春	○				
	文学概論 (英米)	2	1	秋	○				
	国際文化概論	2	1	秋					
	日本語学概論	2	2		○	○	○		
	英語学概論	2	2		○				
	地域文化概論	2	2						
	総合文化講読 I	1	1	春					
	総合文化講読 II	1	1	集中					
	総合文化講読 III	1	2						
	総合文化講読 IV	1	2						
	総合文化基礎演習 I	2	2						
	総合文化基礎演習 II	2	2						
演習科目 (18単位)	総合文化専門演習 I	2	3			○			
	総合文化専門演習 II	2	3			○			
	総合文化専門演習 III	2	4			○			
	総合文化専門演習 IV	2	4			○			
	卒業研究	6	4					注②	
選択科目 (基幹科目・発展科目・キャリア支援科目・留学生支援科目 (留學生のみ履修可) より38単位以上)	日本語・日本文学コース	日本文学史	2	1	秋	○			
		漢文学概論	2	1	秋	○			
		日本文学講読 (古典)	2	3		○	○	○	
		日本文学講読 (現代)	2	3		○	○	○	
		日本語音声学	2	2		○	○	○	
		日本語表現法	2	2		○			
		日本文学講義	2	3		○			
		日本語文法 (古典)	2	2		○	○	○	
		日本語文法 (現代)	2	2		○	○	○	
	英語・国際文化コース	英語コミュニケーション I	1	1	春	○			
		英語コミュニケーション II	1	1	春	○			
		英語コミュニケーション III	1	2	秋	○			
		英語コミュニケーション IV	1	2	秋	○			
		英語発音トレーニング	1	1	春	○			
		英米文化概論	2	1	春	○	○	○	
		英語の文法	2	1	春	○	○	○	
		TOEIC (Listening) II	1	2					
		TOEIC (Reading) II	1	2					
		TOEIC (Listening) III	1	3					
	TOEIC (Reading) III	1	3						
	比較文化論	2	2		○	○	○		
	東アジア文化論	2	2						
	イギリス・アメリカ文学史	2	2		○				
	アメリカの文学と文化	2	2						
	ポキャラリー・ビルディング	1	1	春	○				
	異文化コミュニケーション論	2	3		○	○	○		
	神戸・地域文化コース	地域の文化と経済 I	2	3					
		地域の文化と経済 II	2	3					
		地域の歴史	2	2					
地域と現代社会		2	2						
地域イノベーション論		2	1	秋					
フィールドスタディ I		1	1	秋					
フィールドスタディ II		1	2						
フィールドスタディ III	1	3							

注① TOEIC (Listening) I・TOEIC (Reading) Iは、A (Advanced)、G (General)、B (Basic)のグレード別のクラスになります。年度初めにTOEIC IPを実施し、その成績により受講クラスを決定します。

注② 卒業研究の履修については、「神戸親和女子大学卒業論文・卒業研究に関する内規」(本誌252頁)を必ず参照してください。

授業科目名	単位	配当年次	学期	教免(英)	教免(国)	日本語(主)	日本語(副)	備考
選択科目 (基幹科目・発展科目・キャリア支援科目・留学生支援科目 (留學生のみ履修可) より38単位以上)	ジャーナリズム論	2	3			○	○	
	情報とデザイン	2	3					
	メディア・リテラシー論	2	2					
	海外語学研修	2	1	集中		○		
	英語の歴史	2	2			○		
	日本語教授法	2	2			○	○	
	日本語教育実習 (海外)	3	2			○	○	日本語(注・副)の場合海外が国内のいずれかを修得すること
	日本語教育実習 (国内)	2	4			○	○	教免(国)(中1種)のみ
	書道	1	2		○			同上
	書道史	2	2		○			
	翻訳ワークショップ	1	3			○	○	
	通訳ワークショップ	1	3			○	○	
	英米文学作品研究A	2	3			○		
	英米文学作品研究B	2	3			○		
	対照言語学	2	3			○	○	
	日本語史	2	3		○		○	
	茶花道文化史	2	3			○	○	
	日本芸能論	2	3			○	○	
	日本文化史	2	3			○	○	
	日本語教育の問題点	2	3			○	○	
	社会言語学	2	3			○	○	
	漢文学講読	2	3		○			
	教材研究 I (国語)	1	2					教員免許取得希望者のみ
	教材研究 II (国語)	1	2					教員免許取得希望者のみ
	教材研究 III (国語)	1	3					教員免許取得希望者のみ
教材研究 IV (国語)	1	3					教員免許取得希望者のみ	
教材研究 I (英語)	1	2					教員免許取得希望者のみ	
教材研究 II (英語)	1	2					教員免許取得希望者のみ	
教材研究 III (英語)	1	3					教員免許取得希望者のみ	
教材研究 IV (英語)	1	3					教員免許取得希望者のみ	
キャリア支援科目	文章の技術	2	2		○	○	○	
	話し方の技術	2	2		○	○	○	
	観光ビジネス論A	2	3					
	観光ビジネス論B	2	3					
	マーケティング論	2	1	秋				
	簿記入門	2	1	春				
	ブランドマネジメント論	2	2					
	企画構想学	2	2					
	ビジネス英語	1	2			○	○	
	社会企業論	2	1	春				
自己表現の技術	2	2						
広告論	2	2						
支援科目 (留學生対象科目)	日本事情研究 I	2	2					留學生対象科目
	日本事情研究 II	2	3					

● 児童教育学科専門教育科目群の履修について

卒業要件

群	授業科目	卒業要件単位	備 考
共通教育科目	必修科目	10単位	p.40参照
	選択科目	10単位	p.40参照
専門教育科目	必修科目	24単位	基本科目6単位 演習科目18単位
	選択科目	16単位以上	基幹科目、学内共通科目及び発展科目から16単位以上修得すること ・学内共通科目から6単位以上必ず修得すること ・発展科目から10単位以上必ず修得すること
免許資格科目・その他科目	選択科目	64単位以上	・卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・各学科提供科目 } エクステンション科目 p.52参照 ・資格等科目 ・本学通信教育部での修得単位 ・留学による修得単位※① ・協定大学での修得単位※①
	計	124単位	

※①認定限度単位数については、「神戸親和女子大学単位認定取扱要領」（本誌253頁）を参照してください。

《履修上のアドバイス》

自分の取得したい免許や資格を明確にしてコースを選択しましょう。その上で専門性を高めるために、また、得意な分野を伸ばすために必要なプログラムを下記から選びましょう。

コース説明

- ① 初等教育学コース：主として小学校の教育及び教科教育について理論と実践の両面から学ぶことを通して、専門的力量的のある小学校教諭の養成を目指します。（小学校教諭免許及び特別支援学校教諭免許）（小学校教諭免許及び幼稚園教諭免許）
- ② 幼児教育学コース：幼児教育の原理・内容・方法を理論と実践の両面から学びます。幼児の心が理解でき実践力のある幼稚園教諭の養成を目指します。（幼稚園教諭免許及び保育士資格）（幼稚園教諭免許及び小学校教諭免許）（幼稚園教諭免許及び特別支援学校教諭免許）
- ③ 保育学コース：保育を多面的に研究し、視野の広い保育士の養成を目指します。豊かな保育観とともに、保護者の子育てを支援する能力、高い専門性を持つ保育者の養成を目指します。（保育士資格及び幼稚園教諭免許）

専門性を高める学びのプログラム		
特別支援教育プログラム		特別支援教育の理念を学び、実践力を身につけます。
キッズサイエンスプログラム		実験や観察やICTによる楽しい理科や算数の指導法を学びます。
児童文学・絵本プログラム		読む、聴く、作るを通して絵本を学びます。
児童英語プログラム		英語活動を通して国際感覚を身につける指導法を学びます。
教育学・教育心理学プログラム	教育学科目	教育に関する理論と実践を学びます。
	教育心理学科目	子どもの学びと発達を心理学から理解します。
芸術・体育プログラム		芸術・体育の知識と技能を高め指導法を学びます。
オフキャンパスプログラム	教育・保育実践	大学を飛び出し、子どもや自然を相手に実習によって学びます。
	海外教育研修	教育・文化をグローバルな視野で学びます。

2018年度入学生 児童教育学科専門教育科目群カリキュラム

免許・資格取得における必修科目は○、選択科目は◎
※網掛けは本年度の配当年次科目を表す。

授業科目名		単位	配当年次	学	小	幼	特	備	
		必修	選択	期	免	免	別	考	
				春	春	春	支		
必修 (24単位)	基本科目 (6単位)	2	1	春	○	○			
	教育原理	2	1	春	○	○			
	教育心理学	2	1	春	○	○			
	人権教育	2	1	春	○	○			
	児童教育学基礎演習Ⅰ	2	2						
	児童教育学基礎演習Ⅱ	2	2						
演習科目 (18単位)	児童教育学専門演習Ⅰ	2	3						
	児童教育学専門演習Ⅱ	2	3						
	児童教育学専門演習Ⅲ	2	3						
	児童教育学専門演習Ⅳ	2	3						
	卒業研究	6	4					注①	
	選択科目 (30単位)	初等教育学コース	2	1	春	○	○		
		教職論	2	2					
		教育課程論(初等)	2	2					
		道徳教育の指導法(初等)	2	2					
		特別活動の指導法(初等)	2	2					
		教育方法・技術論(初等)	2	2					
		生徒・進路指導論(初等)	2	2					
		教育相談(初等)	2	2					
		教育社会学	2	2					
		教育制度	2	2					
		外国語活動教育論	2	1	秋	○			
		国語	2	2					
		算数	2	2					
生活		2	2						
社会		2	2						
理科		2	2						
家庭		2	2					小免取得希望者に限る	
音楽Ⅰ		1	1	秋	○				
音楽Ⅱ		1	2					「音楽Ⅰ」を修得済であること	
美術Ⅰ		1	1	春	○				
美術Ⅱ		1	1	秋	○				
体育Ⅰ		1	1	秋	○				
体育Ⅱ		1	2						
教科教育法・国語		2	3						
教科教育法・社会		2	3						
教科教育法・算数		2	3						
教科教育法・理科		2	3						
教科教育法・生活		2	2						
教科教育法・音楽		2	3						
教科教育法・図画工作		2	2						
教科教育法・家庭	2	2							
教科教育法・体育	2	2							
教育実習A事前事後指導(初等)	1	3							
教育実習A(初等)	4	3					注② 内規を満たした者に限る		
教育実習B(初等)	2	2					注③ 内規を満たした者に限る		
教職実践演習(幼・小)	2	4					注④		
幼児教育学コース	幼児教育課程論	2	3						
	子ども理解・教育相談	2	3						
	保育内容(総論)	2	4					小・幼両方取得の場合、「保育内容」については、「保育内容(総論)」を含めた8単位あればよい。ただし、「教育実習A」を幼稚園で実施する場合は、全ての「保育内容」を修得すること。	
	保育内容(健康)	2	2						
	保育内容(人間関係)	2	2						
	保育内容(環境)	2	2						
	保育内容(言葉)	2	2						
	保育内容(表現)	2	2						
	保育内容(表現技術A)	2	2						
	保育内容(表現技術B)	2	2						
	保育原理	2	1	春	○				
	児童福祉論	2	2						
社会福祉論	2	3							
相談援助	1	4					保育士履修可能者に限る		
養護原理	2	2							
保育者論	2	1	春	○					
幼児心理学	2	1	秋	○			1年次用を履修すること		
保育の心理学	1	1	秋	○			保育士履修可能者に限る		
子どもの保健ⅠA	2	3							
子どもの保健ⅠB	2	3							
子どもの保健Ⅱ	1	3					保育士履修可能者に限る		
子どもの食と栄養	2	3					保育士履修可能者に限る		
家族援助論	2	3							
乳児保育Ⅰ	2	2					保育士履修可能者に限る		

- 注① 卒業研究については、「神戸親和女子大学卒業論文・卒業研究に関する内規」(本誌252頁)を参照してください。
- 注② 小学校で実施する場合は3年次、幼稚園で実施する場合は4年次で履修。教育実習については、「神戸親和女子大学教育実習に関する内規」(本誌59頁)を参照してください。
- 注③ 小・幼両方取得する場合、「教育実習A(初等)」を小学校で実施する者は、「教育実習B(初等)」を幼稚園で実施。「教育実習A(初等)」を幼稚園で実施する者は、「教育実習B(初等)」を小学校で実施。幼のみ取得の教育実習については、「神戸親和女子大学教育実習に関する内規」(本誌59頁)を参照してください。
- 注④ 当該免許取得に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習A(初等)を辞退した場合は、履修を認めない。
- 注⑤ 保育実習については、「神戸親和女子大学発達教育学部保育士課程科目の履修に関する内規」(本誌61頁)を参照してください。

授業科目名		単位	配当年次	学	小	幼	特	備	
		必修	選択	期	免	免	別	考	
				春	春	春	支		
基幹科目	障害児保育Ⅰ	2	3				○	保育士履修可能者に限る	
	養護内容	2	2				○	保育士履修可能者に限る	
	保育相談支援	1	4				○	保育士履修可能者に限る	
	保育実習Ⅰ(保育所・施設)	4	2				○	注⑤ 内規を満たした者に限る(人数制限あり)	
	保育実習指導Ⅰ(保育所・施設)	2	1	秋~2秋			○		
	保育実践演習	2	4				○	保育士履修可能者に限る	
	保育学入門	2	1	春			○		
	乳児保育Ⅱ	2	3				○		
	障害児保育Ⅱ	2	3				○		
	保育実習Ⅱ(保育所)	2	3				○	注⑤ 内規を満たした者に限る(人数制限あり)	
	保育実習指導Ⅱ(保育所)	1	3				○		
	保育実習Ⅲ(施設)	2	3				○	注⑤ 内規を満たした者に限る(人数制限あり)	
	保育実習指導Ⅲ(施設)	1	3				○		
	学部内共通 (6単位)	子育てと社会	2	2				○	
		子どもと人権	2	2				○	
青年心理学		2	2				○		
家族心理学		2	1	秋			○		
ボランティア論		2	1	秋			○		
福祉と人権		2	1	春			○		
スポーツ文化事情		2	1	春・秋			○		
生涯スポーツ学習論		2	2				○		
選択科目		特別支援教育基礎理論	2	1	秋			○	
		知的障害児の心理	2	2				○	
		知的障害児の生理・病理	2	2				○	
		肢体不自由児の心理・生理・病理	2	2				○	
		病弱児の心理・生理・病理	2	3				○	特支教育実習履修者に限る
		知的障害児教育論	2	2				○	
		知的障害児教育指導法	2	2				○	
	肢体不自由児教育論	2	1	秋			○		
	病弱児教育論	2	3				○	特支教育実習履修者に限る	
	特別支援	視覚障害児の心理・生理・病理	1	4				○	「視覚障害児教育指導法」を同時に履修すること
		聴覚障害児の心理・生理・病理	1	2				○	「聴覚障害児教育指導法」を同時に履修すること
		視覚障害児教育指導法	1	4				○	特支教育実習履修者に限る
		聴覚障害児教育指導法	1	2				○	「聴覚障害児の心理・生理・病理」を同時に履修すること
		発達障害児教育Ⅰ	2	3				○	
		発達障害児教育Ⅱ	2	4				○	
特別支援学校教育実習事前事後指導	1	4				○	注⑥ 内規を満たした者に限る(人数制限あり)		
特別支援学校教育実習	2	4				○			
発展科目 (10単位以上)	自然観察法	2	1	秋			○		
	子どもの生活と算数	2	3				○		
	キッズメディア	2	2				○	(人数制限あり)	
	発達障理科実験法	2	2				○		
	環境教育実践法	2	4				○		
	子どもと文学	2	2				○		
	子どもと絵本	2	3				○		
	児童文学・絵本の研究Ⅰ	2	4				○		
	児童文学・絵本の研究Ⅱ	2	4				○		
	児童英語教授法A	2	2				○		
児童英語教授法B	2	2				○			
児童英語教材研究A	2	4				○			
児童英語教材研究B	2	4				○			
芸術・体育	児童心理学	2	1	秋			○		
	学習心理学	2	3				○		
	教育臨床心理学	2	3				○		
	英語講読	2	4				○		
	初等教育原理	2	1	秋			○		
	教育評価	2	3				○		
	教育哲学	2	3				○		
	教育法規	2	4				○		
	教育史	2	4				○		
	総合学習の研究	2	4				○		
教育実習実践	海外教育事情	2	1	春			○		
	ピアノ実技Ⅰ	1	1	春			○		
	ピアノ実技Ⅱ	1	2				○	「ピアノ実技Ⅰ」修得済が望ましい	
	ピアノ実技Ⅲ	1	3				○	「ピアノ実技Ⅱ」修得済が望ましい	
	児童運動指導法	2	4				○		
	日本と世界の美術研修	2	2				○		
	ボランティア実習	1	1	集中			○		
	水泳実習	1	1	集中			○		
	スキー実習	1	1	集中			○		
	子どもと遊びの研究	2	3				○		
小学校教育実地研修	1	2				○	小免取得希望者に限る		
幼稚園保育実践研修	1	3				○	注⑦		
海外研修	海外芸術・教育研修	3	1	集中			○		
	海外教育実地研究	3	2				○	実習と重複している場合は、履修できないことがある	
	米国教育研修	3	3	集中			○		
	米国特別派遣教育研修	18	2	集中			○	注⑧(本年度不開講)	

- 注⑥ 特別支援学校教育実習については、「神戸親和女子大学教育実習に関する内規」(本誌59頁)を参照してください。
- 注⑦ 小幼取得希望者のうち、教育実習A(初等)を幼稚園で実施する学生もしくは幼のみ取得を希望する学生に限る。
- 注⑧ 履修登録にあたり、選考があります。

● 心理学科専門教育科目群の履修について

卒業要件

群	授業科目	卒業要件単位	備 考
共通教育 科 目	必修科目	10単位	p.40参照
	選択科目	10単位	p.40参照
専門教育 科 目	必修科目	32単位	基本科目14単位 演習科目18単位
	選択科目	42単位以上	基幹科目、学部内共通科目及び発展科目から42単位以上修得すること ・学部内共通科目から6単位以上修得すること
免許資格 科目・そ 他科目	選択科目	30単位以上	・卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・各学科提供科目 } エクステンション科目 p.52参照 ・資格等科目 } ・本学通信教育部での修得単位 ・留学による修得単位※① ・協定大学での修得単位※①
			計

※①認定限度単位数については、「神戸親和女子大学単位認定取扱要領」（本誌253頁）を参照してください。

プログラム説明

- ①現代女性のための心理学プログラム：日々の生活で経験することや、興味深い事柄をテーマにした心理学を学びます。全く新しい視点からのアプローチで、学生の興味と心理学を結びつけ、将来の職業や家庭生活に役立つ知識・理論を紹介します。
- ②子どものこころがわかるプログラム：子ども達の心とその発達を深く理解し、理論と実践をバランスよく習得しながら、子どもや保護者、地域社会を支援できる人材の育成を目指します。
- ③臨床心理（心の専門家）プログラム：将来、臨床心理士を目指す人のために、その基礎となる学部科目が含まれています。臨床心理学や精神医学のみならず、研究法の基礎もしっかり習得できるようにします。

2018年度入学生 心理学科専門教育科目群カリキュラム

資格取得における必修科目は◎、選択科目は○
※網掛けは本年度の配当年次科目を表す。

	授業科目名	単位		配当年次	学期	認定心理士 注②	公認心理師 注③	備考		
		必修	選択							
必修科目 (32単位)	基本科目 (14単位)	学習・言語心理学	2		2		d	◎		
		臨床心理学概論	2		1	春	a副	◎		
		発達心理学概論	2		1	春	a副			
		感情・人格心理学	2		1	秋	g	◎		
		健康・医療心理学	2		2		g副	◎		
		心理学研究法Ⅰ	2		2		b	◎		
		心理学実験・実習A	1		1	春	c			
	心理学実験・実習B	1		1	秋	c				
	演習科目 (18単位)	心理学基礎演習Ⅰ	2		2					
		心理学基礎演習Ⅱ	2		2					
		心理学専門演習Ⅰ	2		3		i			
		心理学専門演習Ⅱ	2		3		i			
		心理学専門演習Ⅲ	2		4		i			
		心理学専門演習Ⅳ	2		4		i			
卒業研究		6		4		i		注①		
基幹科目	現代女性のための心理学プログラム	女性の心理学		2	1	春				
		粧いの心理学		2	1	春				
		童話の心理学		2	1	秋				
		情報と統計		2	1	春	b副			
		自然環境と心理		2	1	集中				
		音楽心理学		2	2					
		色彩心理学		2	2					
		スポーツ心理学		2	2					
		キャリア支援の心理学		2	3					
		消費者心理学		2	3					
		子どものこころがわかるプログラム	子どもから見た世界		2	1	秋			
	福祉心理学			2	2			◎		
	思いやりの心理学			2	2					
	発達心理学			2	2		f	◎		
	発達臨床心理学Ⅰ			2	2		g			
	発達臨床心理学Ⅱ			2	2		g			
	障害者・障害児心理学			2	3		g	◎		
	教育・学校心理学		2	3		f	◎			
	子ども実習		1	3						
	臨床心理(心)の専門家プログラム	心理学統計法		2	2		b	◎		
		心理学的支援法		2	2			◎		
		カウンセリング		2	3		g			
		精神疾患とその治療		2	3		g副	◎		
		社会心理学実験・実習		2	3		c			
		心理学研究法Ⅱ		2	3		b			
		心理学実験		1	3		c	◎		
		臨床心理学実習		1	2		c副			
		心理的アセスメント		1	3		c副	◎		
		心理演習		2	3			◎		
		英書講読A		2	2					
		英書講読B		2	3					
		学部内共通 (6単位以上)	子育てと社会		2	2				
			子どもと人権		2	2				
青年心理学				2	2		f			
家族心理学			2	1	秋	h				
ボランティア論			2	1	秋					
福祉と人権			2	1	春					
スポーツ文化事情			2	1	春・秋					
生涯スポーツ学習論			2	2						
発展科目	知覚・認知心理学		2	2		d	◎			
	神経心理学		2	2		e				
	社会・集団・家族心理学		2	2		h	◎			
	産業・組織心理学		2	3		h	◎			
	神経・生理心理学		2	3		e	◎			
	公認心理師の職責		2	3			◎			
	司法・犯罪心理学		2	3			◎			
	人体の構造と機能及び疾病		2	3			◎			
	関係行政論		2	3			◎			
	心理実習		2	3			◎			
	海外心理学研修		3	2						

注① 卒業研究については、「神戸親和女子大学卒業論文・卒業研究に関する内規」(本誌252頁)を参照してください。
 注② 認定心理士欄のa～iは、認定心理士資格要件のための各領域を表します。(本誌70頁参照)
 注③ 公認心理師欄以外に公認心理師受験資格取得の必修科目は、共通教育科目の「心理学概論」があります。(本誌71頁参照)

● 福祉臨床学科専門教育科目群の履修について

卒業要件

群	授業科目	卒業要件単位	備 考
共通教育科目	必修科目	10単位	p.40参照
	選択科目	10単位	p.40参照
専門教育科目	必修科目	34単位	基本科目16単位 演習科目18単位
	選択科目	40単位以上	基幹科目、学部内共通科目及び発展科目から40単位以上修得すること ・学部内科目から6単位以上修得すること
免許資格科目・その他科目	選択科目	30単位以上	・卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・各学科提供科目 } エクステンション科目 p.52参照 ・資格等科目 } ・本学通信教育部での修得単位 ・留学による修得単位*① ・協定大学での修得単位*①
	計	124単位	

*①認定限度単位数については、「神戸親和女子大学単位認定取扱要領」（本誌253頁）を参照してください。

コース説明

- ①社会福祉コース：人々のライフサイクル上に起きるさまざまな生活上の問題を把握し、ソーシャルワーカーとしての専門的な支援の仕方等を学び、市民としてのよりよい暮らし方、社会問題に対する敏感な感性と知識を習得します。
- ②子ども福祉コース：保育所及び児童福祉施設では、親と一緒に暮らせない子、虐待を受けている子、心身に障がいのある子などが生活しています。このような子どもたちとその親の理解と専門的な支援の技術を学びます。

2018年度入学生 福祉臨床学科専門教育科目群カリキュラム

資格取得における必修科目は◎、選択科目は○
※網掛けは本年度の配当年次科目を表す。

授業科目名	単位		配当年次	学期	社会福祉士	保育士	備 考
	必修	選択					
必修科目 (34単位)	基本科目 (16単位)	社会福祉概論Ⅰ	2	1	春	◎	◎
		社会福祉概論Ⅱ	2	1	秋	◎	○
		社会福祉援助技術論Ⅰ	2	1	春	◎	
		社会福祉援助技術論Ⅱ	2	1	秋	◎	
		児童福祉論	2	2		◎	◎
		障害者福祉論	2	2		◎	○
		老人福祉論	2	2		◎	○
		地域福祉論Ⅰ	2	2		◎	○
	演習科目 (18単位)	福祉臨床基礎演習Ⅰ	2	2			
		福祉臨床基礎演習Ⅱ	2	2			
		福祉臨床専門演習Ⅰ	2	3			
		福祉臨床専門演習Ⅱ	2	3			
		福祉臨床専門演習Ⅲ	2	4			
		福祉臨床専門演習Ⅳ	2	4			
卒業研究	6	4				注①	
選択科目 (40単位以上)	基幹科目 社会福祉コース	公的扶助論	2	3		◎	
		社会保障論Ⅰ	2	2		◎	
		社会保障論Ⅱ	2	2		◎	
		社会福祉援助技術論Ⅲ	2	2		◎	
		社会福祉援助技術論Ⅳ	2	2		◎	
		介護概論	2	3		◎	
		社会調査の基礎	2	3		◎	
		地域福祉論Ⅱ	2	2		◎	
		福祉行財政と福祉計画	2	4		◎	
		福祉サービスの組織と経営	2	4		◎	
		保健医療サービス	2	4		◎	
		医学一般	2	3		○	
		就労支援サービス	1	4		○	
		権利擁護と成年後見制度	2	4		○	
更生保護制度	1	4		○			

授業科目名		単位		配 当 年 次	学 期	社 会 福 祉 士	保 育 士	備 考
		必 修	選 択					
基礎科目 子ども福祉コース	保育原理		2	1	春		◎	
	保育者論		2	1	春		◎	
	子どもの保健ⅠA		2	3			◎	
	子どもの保健ⅠB		2	3			◎	
	子どもの保健Ⅱ		1	3			◎	保育士履修可能者に限る
	子どもの食と栄養		2	3			◎	保育士履修可能者に限る
	保育内容Ⅰ		2	1	秋		◎	保育士履修可能者に限る
	保育内容Ⅱ		2	2			◎	保育士履修可能者に限る
	保育内容Ⅲ		2	2			◎	保育士履修可能者に限る
	音楽Ⅰ		1	1	春		○	保育士資格取得希望者に限る
	音楽Ⅱ		1	1	秋		○	保育士履修可能者に限る
	造形Ⅰ		1	1	春		○	保育士資格取得希望者に限る
	造形Ⅱ		1	1	秋		○	保育士履修可能者に限る
	保育実習Ⅰ（保育所・施設）		4	2			◎	
	保育実習指導Ⅰ（保育所・施設）		2	1秋～2秋			◎	注② 内規を満たした者に限る（人数制限あり）
	保育実践演習		2	4			◎	保育士履修可能者に限る
	保育実習Ⅱ（保育所）		2	3			○	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）		1	3			○	注② 内規を満たした者に限る（人数制限あり）
	保育実習Ⅲ（施設）		2	3			○	
	保育実習指導Ⅲ（施設）		1	3			○	注② 内規を満たした者に限る（人数制限あり）
養護児童援助論		2	3			○		
選択科目（40単位以上） 学部内共通科目 (6単位以上)	子育てと社会		2	2			○	
	子どもと人権		2	2			○	
	青年心理学		2	2			○	
	家族心理学		2	1	秋			
	ボランティア論		2	1	秋			
	福祉と人権		2	1	春			
	スポーツ文化事情		2	1	春・秋			
	生涯スポーツ学習論		2	2				
発展科目	相談援助演習Ⅰ		1	1	秋	◎	◎	
	相談援助演習Ⅱ		1	2		◎		「Ⅰ」修得者に限る
	相談援助演習Ⅲ		1	2		◎		「Ⅰ」修得者に限る
	相談援助演習Ⅳ		1	3		◎		「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」修得者に限る
	相談援助演習Ⅴ		1	3		◎		「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」修得者に限る
	相談援助実習指導Ⅰ		1	2		◎		注③
	相談援助実習指導Ⅱ		1	3		◎		「Ⅰ」修得者に限る
	相談援助実習指導Ⅲ		1	3		◎		「Ⅰ」修得者に限る
	相談援助実習		4	3		◎		注④ 内規を満たした者に限る
	家族援助論		2	3			◎	
	福祉レクリエーション論		2	1	秋			
	海外福祉研修		2	2			○	事前事後指導あり 隔年開講（本年度開講）
福祉施設実地研修		2	3			○		

注① 卒業研究については、「神戸親和女子大学卒業論文・卒業研究に関する内規」（本誌252頁）を参照してください。
 注② 保育実習については、「神戸親和女子大学発達教育学部保育士課程科目の履修に関する内規」（本誌63頁）を参照してください。
 注③ 「社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」を修得もしくは履修中である者に限ります。ただし、当該科目受講年度の春学期末でこれらすべての科目を修得出来なかった場合は、履修を認めません。
 注④ 相談援助実習については、「神戸親和女子大学発達教育学部福祉臨床学科社会福祉士国家試験受験資格要件科目の履修に関する内規」（本誌65頁）を参照してください。

● ジュニアスポーツ教育学科専門教育科目群の履修について

卒業要件

群	授業科目	卒業要件単位	備 考
共通教育科目	必修科目	10単位	p.40参照
	選択科目	10単位	p.40参照
専門教育科目	必修科目	32単位	基本科目14単位 演習科目18単位
	選択科目	24単位以上	基幹科目、学部内共通科目及び発展科目から24単位以上修得すること ・学部内共通科目から6単位以上必ず修得すること。
免許資格科目・その他科目	選択科目	48単位以上	・卒業要件を超えて修得した共通教育選択科目 ・卒業要件を超えて修得した専門教育選択科目 ・各学科提供科目 } エクステンション科目 p.52参照 ・資格等科目 } ・本学通信教育部での修得単位 ・留学による修得単位※① ・協定大学での修得単位※①
			計

※①認定限度単位数については、「神戸親和女子大学単位認定取扱要領」（本誌253頁）を参照してください。

コース説明

- ①ジュニアスポーツ教育コース：子どもの教育という視点から、スポーツ教育に関わる学問領域を学び、子どものスポーツ指導（コーチング）の原理と方法を理論・実践の両面から学習。子どもの潜在能力を引き出す知識と技能を習得するコースです。
- ②スポーツカウンセリングコース：スポーツ心理学の視点から、子どもの運動嫌いやスポーツ活動における「あがり」「スランプ」「燃え尽き」などの心理的諸問題についての学習。また、メンタルトレーニングなどのメンタルケアについての知識と技能を習得するコースです。
- ③スポーツマネジメントコース：学校での体育祭・自然教室、地域社会との交流といったスポーツ大会・レクリエーション大会・その他イベント等の企画立案と実行。スポーツ教育・ビジネス全般に関わるマネジメントの知識と方法を学ぶコースです。

2018年度入学生 ジュニアスポーツ教育学科専門教育科目群カリキュラム

免許・資格取得における必修科目は◎、選択科目は○
※網掛けは本年度の配当年次科目を表す。

授業科目名	単位		配当年次	学期	教免	リスポーツ	指導員	ジュニアスポーツ	アシスタントマネージャー	障がい者スポーツ	指導員	健康運動	備考	
	必修	選択												
必修科目 (32単位)	基本科目 (14単位)	ジュニアスポーツ教育学総論	2	1	春			◎						
		スポーツ統計学	2	3										
		児童教育学総論	2	1	秋									
		児童心理学総論	2	1	春									
		ジュニアスポーツ指導者論	2	3			◎	◎	◎	◎	◎			
		ジュニアスポーツ実践	2	2				◎						
		運動発達心理学	2	3										
	演習科目 (18単位)	ジュニアスポーツ教育学基礎演習Ⅰ	2	2										
		ジュニアスポーツ教育学基礎演習Ⅱ	2	2										
		ジュニアスポーツ教育学専門演習Ⅰ	2	3										
		ジュニアスポーツ教育学専門演習Ⅱ	2	3										
		ジュニアスポーツ教育学専門演習Ⅲ	2	4										
		ジュニアスポーツ教育学専門演習Ⅳ	2	4										
		卒業研究	6	4										注①
選択科目 (6単位以上)	基幹科目	ジュニアスポーツ教育コース	スポーツ運動学	2	3		◎							
			ジュニアトレーニング論	2	2			◎	◎	◎				
			コーチング論	2	4			◎	◎	◎				
			保健体育科教育法Ⅰ	2	2		◎							
			保健体育科教育法Ⅱ	2	2		◎							
			安全救急法	2	3		◎	◎	◎	◎				
			教材・教具の研究	2	3									
		セリックコース	スポーツカウンセリング総論	2	2									
			メンタルトレーニング	2	3									
			ソーシャルサポート	2	2									
	スポーツマネジメントコース	学校保健	2	3		◎								
		地域スポーツ経営論Ⅰ	2	3					◎					
		地域スポーツ経営論Ⅱ	2	3					◎				「地域スポーツ経営論Ⅰ」修得者に限る	
		スポーツマネジメント総論	2	2			◎	◎	◎					
		スポーツ組織経営論	2	2										
		スポーツ行政策論	2	2			◎	◎	◎					
		学校体育経営論	2	2		◎								
	学部内共通科目	子育てと社会	2	2										
		子どもと人権	2	2										
		青年心理学	2	2										
		家族心理学	2	1	秋									
		ボランティア論	2	1	秋									
		福祉と人権	2	1	春									
		スポーツ文化事情	2	1	春・秋									
生涯スポーツ学習論		2	2											
発展科目		健康運動実践	2	1	春								◎	
		医学一般	2	3									◎	
		解剖生理学	2	2		◎								
		スポーツ生理学	2	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		体力測定評価	2	2			◎	◎	◎				◎	
		スポーツ医学	2	3			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	スポーツ栄養学	2	2			◎	◎	◎				◎		
	公衆衛生学	2	2		◎									
	スポーツ原理	2	1	秋	◎	◎	◎	◎						
	スポーツ社会学	2	1	秋	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	スポーツ心理学	2	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎		
	スポーツバイオメカニクス	2	2		◎	◎	◎	◎				◎		
	スポーツ情報戦略論	2	3			◎	◎	◎						
	エアロビックダンス	1	3									◎		
	体ほぐし	1	3											
	ダンス	1	1	春・秋	◎									
	器械運動	1	1	春・秋	◎									
	陸上運動	1	1	秋	◎		◎				◎	◎		
	バスケットボール	1	2		◎		◎							
	バレーボール	1	2		◎		◎							
	テニス	1	3		◎		◎							
	ソフトボール	1	1	春	◎		◎				◎			
	サッカー	1	3		◎		◎							
	ラグビー	1	2		◎									
武道	1	3		◎										
水泳	1	1	春	◎		◎				◎	◎			
遠泳	1	1	集中			◎						「水泳」履修者に限る		
スキー	2	1	集中			◎								
生涯スポーツ実技演習	2	4							◎	◎				
海外スポーツ教育・文化研修	2	2												

注① 卒業研究については、「神戸親和女子大学卒業論文・卒業研究に関する内規」(本誌252頁)を参照してください。

● エクステンション科目群

この科目群は、学生の皆さんに学科の専門の枠を越えて幅広い教養、専門知識を系統立てて身につけていただくために設けたものです。したがって、各自で学修の目標を立て、その目標に則した科目を履修するよう心掛けてください。

なお、エクステンション科目（共通教育科目及び自学科専門教育科目を除く）群の履修は自由選択ですので、自学科の専門科目のみで専門教育科目群の単位を満たすことも可能です。

免許・資格科目		エクステンション科目として履修可能学科				
		総文	児教	心理	福祉	ジュニアスポーツ
教職課程科目（取得免許科目のみ）		○ （英語・国語科目のみ）				○ （保健体育科目のみ）
保育士課程科目（福祉臨床学科対象科目のみ）					△ 注①	
司書課程科目		○	○	○	○	○
司書教諭課程科目		○	○			○
日本語教員資格関係科目		○	○	○	○	○
認定心理士科目				○ （「学習心理学」のみ）		
授業科目名		提供学科				
海外 研修 科目 注④	海外芸術・教育研修	児教		○	○	○
	海外教育実地研究	児教		○	○	○
	米国教育研修	児教		○	○	○
	米国特別派遣教育研修 注②	児教		○	○	○
	海外福祉研修 注③	福祉	○	○	○	○
	海外心理学研修	心理	○	○	○	○
	海外スポーツ教育・文化研修	ジュニアスポーツ	○	○	○	○
文化 科目 ・ スポーツ	水泳実習			○		
	スキー実習			○	○	
	ボランティア実習	児教		○	○	○
	日本と世界の美術研修			○	○	○
	海外教育事情			○	○	○
教育 科目 児童英語	外国語活動教育論			○		
	児童英語教材研究A			○		
	児童英語教材研究B	児教		○		
	児童英語教授法A			○		
	児童英語教授法B			○		
ライ フ サイ ン ス 科 目	心理学的支援法				○	
	カウンセリング				○	
	臨床心理学実習				○	
	自然環境と心理	○	○		○	○
フ ロ ク ラ ム	児童福祉論			○		
	障害者福祉論			○		
	老人福祉論			○		
	地域福祉論 I			○		
	医学一般			○		
	子どもの保健 I A			○		
教育 科目 英語資格	TOEIC (Reading) I		○	○	○	○
	TOEIC (Reading) II		○	○	○	○
	TOEIC (Listening) I		○	○	○	○
	TOEIC (Listening) II		○	○	○	○
科 目 出 版 書	ジャーナリズム論			○		
	広告論			○		
支 援 科 目 カ リ ア	フィールドスタディ I			○		○
	フィールドスタディ II			○		○
	フィールドスタディ III			○		○

注① 保育士履修可能者に限る。

注② 履修登録にあたり、選考がある。

注③ 隔年開講（本年度開講）

注④ 実習と重複している場合等は、履修できないことがある。

● 教職課程

本学は、文部科学省から認可を受け、教員免許状を取得するための教職課程を設けています。

教員になる場合は、いずれの雇用形態 [正規の教員・臨時的任用教員 (時間講師・常勤講師など)] でも、教員免許状を所有していることが絶対条件となります。

教職課程の科目を修得することによって、本学卒業時に教員免許状が取得できます。教職課程の各科目は、教育職員免許法、学校教育法等各種の法令、文部科学省及び各教育委員会からの通達等により細かく規定されている法定科目です。そのため、履修に際しては、出席・成績等についても厳格な条件が設けられています。

特に、教育実習については、定められた科目を修得済みでなければ履修できないので履修計画には十分留意してください。(教育実習については、必ず「教育実習に関する内規」(59頁)を参照しておくこと。)

教育実習は、各教育委員会、実習校の規定や指導のもとに行われるもので、一人一人の強い意欲と真摯な学習態度、几帳面さ等が求められます。下記の流れに沿って説明会や事前事後指導が行われますので、必ず出席してください。なお、教育実習及び介護等体験に関する連絡は、全て掲示板にて行われますので、注意してください。また、わからないことがあれば、独り合点をせず、必ず早めに教職課程・実習支援センターで確認してください。

教職課程 実習等の流れ

	幼	小	中	高
1年	(特別支援学校教育実習説明会1回目)	(特別支援学校教育実習説明会1回目)		
2年	(特別支援学校教育実習説明会2回目) 教育実習B事前指導 教育実習B(選択)9・2月	(特別支援学校教育実習説明会2回目) 教育実習B事前指導 教育実習A(小学校)説明会(4月) 教育実習A(小学校)依頼(6~9月) 教育実習B(選択)9月 小学校教育実地研修(選択) 介護等体験申し込み説明会(11月)		
3年	(特別支援学校教育実習説明会3回目) 幼稚園保育実践研修(選択) 教育実習A(幼稚園)説明会(5月)	(特別支援学校教育実習説明会3回目) 教育実習A(小学校)事前指導(4~8月) 介護等体験事前指導(4月) 介護等体験(5月~11月) 福祉施設に5日間・特別支援学校に2日間 教育実習A(小学校) (9月~10月に4週間)	教育実習I・II説明会(4月) 教育実習I・II依頼(4~6月)	
4年	教育実習A(幼稚園)事前指導(2~5月) 特別支援学校教育実習事前指導(4~5月) 教育実習A(幼稚園) (4月実習1週間、 6月実習3週間) 〔特別支援学校教育実習〕 (春または秋に2週間)	特別支援学校教育実習事前指導(4~5月) 〔特別支援学校教育実習〕 (春または秋に2週間)	教育実習I・II事前指導(4~5月) 教育実習I・II (6月または10月に3週間)	教育実習I・II事前指導(4~5月) 教育実習I・II (6月または10月に2週間)
				教員免許状交付説明会(12月) 教員免許状交付(卒業式にて)

※各実習等に関する連絡は全て掲示板(114号教室前)にて行われますので、各自で確認してください。

※「教育実習A」を、小学校で実施の場合は3年次、幼稚園で実施の場合は4年次で実施。

※小・幼両方取得する場合、「教育実習A」を小学校で実施する者は、「教育実習B」を幼稚園で2年次に実施。「教育実習A」を幼稚園で実施する場合は、「教育実習B」を小学校で2年次に実施すること。

※特別支援の免許を希望する場合は必ず教育実習に行かなければならず、幼もしくは小の免許を取得することが前提となります。

※中・高両方取得する場合、原則、中学校で3週間の実習となります。

①免許取得のための基礎資格と最低単位数(教育職員免許法)

教育職員免許法・同施行規則には、免許状取得のための所要条件として基礎資格(大学卒業)と最低修得単位数(法規上単位数)が定められています。

免許の種類	所要資格	基礎資格	大学における最低修得単位数		
			教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目
幼稚園教諭一種免許状		学士の学位を有すること	6	35	10
小学校教諭一種免許状		学士の学位を有すること	8	41	10
中学校教諭一種免許状(国語・英語・保健体育)		学士の学位を有すること	20	31	8
高等学校教諭一種免許状(国語・英語・保健体育)		学士の学位を有すること	20	23	16

②教職課程の履修について

教員免許状を取得するためには次の4系統の科目が必要です。各教科とも、免許法上の最低修得単位を基準として、本学で定められた科目、単位を修得しなければなりません。また、小・中学校の教員免許状取得の場合は、「介護等の体験」が必要となります。

(ア) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める必修科目

日本国憲法、基礎体育学、健康行動学、総合英語Ⅰ・Ⅱ、情報基礎Ⅰ

(イ) 教職に関する科目

(ウ) 教科に関する科目

(エ) 教科又は教職に関する科目

(オ) 介護等の体験

小・中学校の免許状を取得しようとする者は、「介護等の体験」7日間(社会福祉施設等5日間、特別支援学校2日間)が必修となります。

③総合文化学科 教職・教科・教科又は教職に関する科目<高等学校・中学校教諭一種免許状(国語)>

免許取得における必修科目は○、選択科目は◎

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する本学で定められた授業科目				免許状		備考		
科目	単位数	授業科目名	卒業要件としての単位数	科目選択	配当年次	高	中			
め規 則育 必修 第職 6員 免 条 6 法 施 定 行	日本国憲法	日本国憲法	2	2	1	◎	◎	共通教育科目		
	体育	基礎体育学	2	1	1	◎	◎	共通教育科目		
		健康行動学	2	1	1	◎	◎	共通教育科目		
	外国語コミュニケーション	2	総合英語Ⅰ	1	1	◎	◎	共通教育科目		
	情報機器の操作	2	総合英語Ⅱ	1	1	◎	◎	共通教育科目		
						◎	◎	共通教育科目		
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2	2	◎	2	◎	2	
		教員の職務内容(研修、服務及び身元保障等を含む。)								
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	2	2	◎	8	◎	8	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	2	2	◎	(6単位を超えて修得した単位数は★の単位にすることができる)	◎	(6単位を超えて修得した単位数は★の単位にすることができる)		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	2	2	◎		◎			
		教育課程の意義及び編成の方法	2	2	◎		◎			
	教育課程及び指導法に関する科目	各教科の指導法	教育課程論(中等)	中12高6	2	3	◎	10	◎	14
			国語科教育法ⅠA		2	2	◎			
		道徳の指導法 特別活動の指導法 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	国語科教育法ⅠB	2	2	◎	(6単位を超えて修得した単位数は★の単位にすることができる)	◎	◎	(12単位を超えて修得した単位数は★の単位にすることができる)
			国語科教育法ⅡA	2	3	◎				
			国語科教育法ⅡB	2	3	◎				
			道徳教育の指導法(中等)	2	3	◎				
特別活動の指導法(中等)	2	2	◎		◎					
教育方法・技術論(中等)	2	3	◎		◎					
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2	2	◎	4	◎	4		
	進路指導の理論及び方法									
教育実習	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	中5高3	2	3	◎	3	◎	5		
	教育実習Ⅰ(中等)		1	4	◎					
	教育実習Ⅱ(中等)		2	4	◎					
教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)	2	4	◎	2	◎	2		
教科に関する科目	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語学概論	20	2	2	◎	20	◎	20	
		日本語表現法		2	2	◎				
		文章の技術		2	2	◎				
		話し方の技術		2	2	◎				
		日本語文法(古典)		2	2	◎				
		日本語文法(現代)		2	2	◎				
		日本語音声学		2	2	◎				
	日本語史	2	3	◎						
	国文学(国文学史を含む。)	文学概論(日本)	2	1	◎	(20単位を超えて修得した単位数は★の単位にすることができる)	◎	(20単位を超えて修得した単位数は★の単位にすることができる)		
		日本文学史	2	1	◎					
		日本文学講読(古典)	2	3	◎					
		日本文学講読(現代)	2	3	◎					
日本文学講義		2	3	◎						
漢文学	漢文学概論	2	1	◎	◎	◎	◎			
	漢文学講読	2	3	◎						
書道(書写を中心とする。)	書道	1	2	◎	◎	◎	◎			
	書道史	2	2	◎						
★に 関 科 目 又 は 教 職	道徳教育の指導法(中等)	中8高16	2	3	◎	★16	◎	★8		
	免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した「教科に関する科目」									
	免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した「教職に関する科目」									

○中学校の教員免許状を取得しようとする者は「介護等の体験」は必修となります

介護等の体験(7日間)			3	◎	7日間(2年の11月に説明会を予定)
-------------	--	--	---	---	--------------------

注① 実習内規を満たした者に限る。

注② 当該免許状取得に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習Ⅰ・Ⅱ(中等)を辞退した場合は、履修を認めない。

④総合文化学科 教職・教科・教科又は教職に関する科目<高等学校・中学校教諭一種免許状(英語)>

◎英語の教員免許状を取得しようとする学生は、実習前年度の3月末までに英検2級又はTOEIC350点以上を取得しておくこと。
 免許取得における必修科目は◎、選択科目は○

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する本学で定められた授業科目				免許状		備考	
科目	単位数	授業科目名	卒業要件としての単位数 必修 選択	科目 単位数	配 年 次	高	中		
め規 別育 第職 66員 条免 の6許 に施 定行	日本国憲法	日本国憲法	2	2	1	◎	◎	共通教育科目	
	体育	基礎体育学		1	1	◎	◎	共通教育科目	
		健康行動学	2	1	1	◎	◎	共通教育科目	
	外国語コミュニケーション		総合英語Ⅰ	1	1	◎	◎	共通教育科目	
	情報機器の操作		総合英語Ⅱ	1	1	◎	◎	共通教育科目	
		情報基礎Ⅰ	2	1	◎	◎	共通教育科目		
教職に関する科目	教職の意義及び教員の役割に関する科目	教職の意義及び教員の役割							
		教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)	2	2	2	◎	◎	2	
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理		2	2	◎	◎	8
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	教育心理学	6	2	2	◎	◎	(6単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる)
			教育社会学	2	2	2	◎	◎	(6単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる)
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	人権教育	2	2	2	◎	◎	(6単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる)
	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論(中等)		2	3	◎	◎	
		各教科の指導法	英語科教育法ⅠA	中12高6	2	2	◎	◎	
			英語科教育法ⅠB	2	2	2	◎	◎	
		道徳の指導法	英語科教育法ⅡA	2	3	3	◎	◎	(6単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる)
			英語科教育法ⅡB	2	3	3	◎	◎	(12単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる)
	特別活動の指導法	道徳教育の指導法(中等)	2	3	1	◎	◎	中一種のみ必修	
特別活動の指導法(中等)	特別活動の指導法(中等)	2	2	2	◎	◎	中一種のみ必修		
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法・技術論(中等)	2	3	2	◎	◎			
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論(中等)		2	2	◎	◎		
	進路指導の理論及び方法	教育相談(中等)	4	2	3	◎	◎	4	
教育実習	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育実習事前事後指導(中等)	中5高3	1	4	◎	◎	3	
		教育実習Ⅰ(中等)	2	4	◎	◎	(3単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる)		
		教育実習Ⅱ(中等)	2	4	◎	◎	5		
教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)		2	4	◎	◎	2	
教科に関する科目	英語学	英語学概論	20	2	2	◎	◎		
		英語の歴史	2	2	2	◎	◎		
		英語の文法	2	1	1	◎	◎		
		英語発音トレーニング	1	1	1	◎	◎		
		ポキャブラリー・ビルディング	1	1	1	◎	◎		
	英米文学	文学概論(英米)	2	1	1	◎	◎		
		イギリス・アメリカ文学史	2	2	2	◎	◎		
		英米文学作品研究A	2	3	3	◎	◎	(20単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる)	
	英語コミュニケーション	英米文学作品研究B	2	3	3	◎	◎	(20単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる)	
		英語コミュニケーションⅠ	1	1	1	◎	◎		
英語コミュニケーションⅡ		1	1	1	◎	◎			
英語コミュニケーションⅢ		1	2	2	◎	◎			
異文化理解	英語コミュニケーションⅣ	1	2	2	◎	◎			
	比較文化論	2	2	2	◎	◎			
	英米文化概論	2	1	1	◎	◎			
に教 関科 ★又 する は教 職	異文化コミュニケーション論	異文化コミュニケーション論	2	2	3	◎	◎		
		道徳教育の指導法(中等)	中8高16		2	3	◎	◎	
免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した「教科に関する科目」						★16	★8	中一種は8単位以上 高一種は16単位以上	
免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した「教職に関する科目」									

○中学校の教員免許状を取得しようとする者は「介護等の体験」は必修となります

介護等の体験(7日間)			3	◎	7日間(2年の11月に説明会を予定)
-------------	--	--	---	---	--------------------

注① 実習内規を満たした者に限る。

注② 当該免許取得に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習Ⅰ・Ⅱ(中等)を辞退した場合は、履修を認めない。

⑤児童教育学科 教職・教科・教科又は教職に関する科目<小学校・幼稚園教諭一種免許状>

免許取得における必修科目は○、選択科目は◎

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する本学で定められた授業科目				免許状		備考	
科目	単位数	授業科目名	卒業要件としての単位数 必修 選択	配当年次	小	幼			
に行教育 定規育 め則職 る第員 必66免 修上許 法科目 6施	日本国憲法	日本国憲法	2	2	1	◎	◎	共通教育科目	
	体育	基礎体育学	2	1	1	◎	◎	共通教育科目	
		健康行動学	2	1	1	◎	◎	共通教育科目	
	外国語コミュニケーション	総合英語Ⅰ	1	1	1	◎	◎	共通教育科目	
		総合英語Ⅱ	1	1	1	◎	◎	共通教育科目	
	情報機器の操作	情報基礎Ⅰ	2	2	1	◎	◎	共通教育科目	
教職に関する科目	教職の意義及び教員の役割に関する科目	教職論	2	1	◎	◎	◎		
	教育の基礎理論に関する科目	教育原理	2	1	◎	◎	◎		
		教育心理学	2	1	◎	◎	◎	(6単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる)	
		人権教育	2	3	◎	◎	◎	(6単位を超えて修得した単位は★の単位にすることができる)	
		教育社会学	2	3	◎	◎	◎	1科目必修	
		教育制度	2	3	◎	◎	◎		
	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論(初等)	2	2	◎	◎	◎	
		各教科の指導法	教科教育法・国語	2	3	◎	◎	◎	
			教科教育法・社会	2	3	◎	◎	◎	
			教科教育法・算数	2	3	◎	◎	◎	
			教科教育法・理科	2	3	◎	◎	◎	
			教科教育法・生活	2	2	◎	◎	◎	
			教科教育法・音楽	2	3	◎	◎	◎	
			教科教育法・図画工作	2	2	◎	◎	◎	
		道徳の指導法	道徳教育の指導法(初等)	2	2	◎	◎	◎	
		特別活動の指導法	特別活動の指導法(初等)	2	3	◎	◎	◎	
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法・技術論(初等)	2	3	◎	◎	◎		
	保育内容の指導法	幼児教育課程論	2	3	◎	◎	◎		
		保育内容(総論)	2	4	◎	◎	◎		
		保育内容(健康)	2	2	◎	◎	◎		
		保育内容(人間関係)	2	2	◎	◎	◎		
		保育内容(環境)	2	2	◎	◎	◎		
		保育内容(言葉)	2	2	◎	◎	◎		
		保育内容(表現)	2	2	◎	◎	◎		
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法・技術論(初等)	2	2	◎	◎	◎		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論(初等)	2	3	◎	◎	◎	
進路指導の理論及び方法		教育相談(初等)	2	3	◎	◎	◎		
教育実習	教育実習A(初等)	4	3	◎	◎	◎			
	教育実習B(初等)	2	2	◎	◎	◎			
教職実践演習	教職実践演習(幼・小)	2	4	◎	◎	◎	※注		
教科に関する科目	国語(書写を含む。)	国語	2	2	◎	◎	◎	小一種8単位以上 幼一種6単位以上 「音楽」が修得済であること	
	社会	社会	2	2	◎	◎	◎		
	算数	算数	2	2	◎	◎	◎		
	理科	理科	2	2	◎	◎	◎		
	生活	生活	2	2	◎	◎	◎		
	音楽	音楽Ⅰ	1	1	◎	◎	◎		
		音楽Ⅱ	1	2	◎	◎	◎		
	図画工作	美術Ⅰ	1	1	◎	◎	◎		
		美術Ⅱ	1	1	◎	◎	◎		
	家庭	家庭	2	2	◎	◎	◎		
体育	体育Ⅰ	1	1	◎	◎	◎			
	体育Ⅱ	1	2	◎	◎	◎			
に教科又は教職に関する科目	外国語活動教育論	2	1	◎	◎	◎			
	免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した「教科に関する科目」				★10	◎	◎	小一種・幼一種ともに10単位以上	
	免許法施行規則に定める最低修得単位を超えて修得した「教職に関する科目」				◎	◎	◎		

○小学校の教員免許状を取得しようとする者は「介護等の体験」は必修となります

介護等の体験(7日間)	3	◎	-	7日間(2年の11月に説明会を予定)
-------------	---	---	---	--------------------

注 当該免許状取得に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習A(初等)を辞退した場合は、履修を認めない。

⑥児童教育学科 特別支援教育に関する科目<特別支援学校教諭一種免許状>(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)

特別支援学校教諭とは、平成19年4月より従来の盲学校、聾学校、養護学校を統合した特別支援学校において、さまざまな障害のある子どもたちの教育に携わる教諭のことです。特別支援学校教諭は、通常の教育に関する知識や技術だけではなく、障害特性についての理解をふまえた関わりが求められます。特別支援学校のみならず、通常学級に在籍しているLD（学習障害）やADHD（注意欠陥／多動性障害）、あるいは高機能自閉症などの子どもたちに対する教育支援の役割も期待されています。

なお、本免許状の取得に際しては、学士の学位を有し、かつ、幼稚園又は小学校教諭一種免許状を有することが前提条件となります。

《特別支援学校教育実習履修可能者》

- ①教職又はこれに関連する職種に就くことを希望していること。
- ②1年次秋学期成績確定時（春学期の成績を含む）のGPAが特別支援学校教諭免許状取得希望者の上位50名であること。なお、GPAが同点の場合は、「教育原理」「教育心理学」「特別支援教育基礎理論」「肢体不自由児教育論」の合計点数順とする。さらに、同点者がいる場合は、「特別支援教育基礎理論」「肢体不自由児教育論」の合計点数順とする。
- ③上記内容とともに授業や説明会への取り組み態度なども合わせて総合的に判断することとする。

《特別支援学校教育実習履修者確定》

- ①特別支援学校教育実習説明会に出席していること。（説明会日時については、掲示にて連絡）
- ②「特別支援学校教育実習」の内規を満たしていること。

免許取得における必修科目は○、選択科目は○

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する本学で定められた授業科目				中心となる領域	含む領域	
科目	単位数	授業科目名	卒業要件としての単位 必修 選択	配当年次	特支			
特別支援教育に関する科目	特別支援教育の基礎理論に関する科目	2	特別支援教育基礎理論		2 1	○		
	特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害児の心理		2 2	○	知的障害者	
			知的障害児の生理・病理		2 2	○	知的障害者	
			肢体不自由児の心理・生理・病理		2 2	○	肢体不自由者	知的障害者 病弱者
			病弱児の心理・生理・病理		2 3	○	病弱者	知的障害者 肢体不自由者
			知的障害児教育論		2 2	○	知的障害者	
			知的障害児教育指導法		2 2	○	知的障害者	肢体不自由者 病弱者
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	肢体不自由児教育論		2 1	○	肢体不自由者		
		病弱児教育論		2 3	○	病弱者		
		心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	視覚障害児の心理・生理・病理		1 4	○	視覚障害者	
			聴覚障害児の心理・生理・病理		1 2	○	聴覚障害者	
	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	視覚障害児教育指導法		1 4	○	視覚障害者	
			聴覚障害児教育指導法		1 2	○	聴覚障害者	
		心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	発達障害児教育Ⅰ		2 3	○	重複・LD等領域	
			発達障害児教育Ⅱ		2 4	○	重複・LD等領域	
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	3	特別支援学校教育実習事前事後指導		1 4	○			
		特別支援学校教育実習		2 4	○			

⑦ジュニアスポーツ教育学科 教職・教科・教科又は教職に関する科目<高等学校・中学校教諭一種免許状(保健体育)>

免許取得における必修科目は◎、選択科目は○

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する本学で定められた授業科目				免許状		備考	
科目	単位数	授業科目名	卒業要件としての単位数	科目選択	配当年次	高	中		
66条の6に定める必修科目第6号の職員免許法施行規則第6号の6に定める必修科目第6号	日本国憲法	2	日本国憲法	2	1	◎	◎	共通教育科目	
	体育	2	基礎体育学	1	1	◎	◎	共通教育科目	
			健康行動学	2	1	◎	◎	共通教育科目	
	外国語コミュニケーション	2	総合英語Ⅰ	1	1	◎	◎	共通教育科目	
			総合英語Ⅱ	1	1	◎	◎	共通教育科目	
情報機器の操作	2	情報基礎Ⅰ	2	1	◎	◎	共通教育科目		
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	2	教職論	2	2	◎	◎	2	
	教育の基礎理論に関する科目	6	教育原理	2	2	◎	◎	8	
			教育心理学	2	2	◎	◎	8	
			教育社会学 人権教育	2 2	2 2	◎ ◎	◎ ◎	(6単位を超えて修得した単位数は★の単位にすることができる) (6単位を超えて修得した単位数は★の単位にすることができる)	
	教育課程及び指導法に関する科目	中12高6	教育課程の意義及び編成の方法	2	3	◎	◎	◎	
			各教科の指導法	保健体育科教育法Ⅰ	2	2	◎	◎	10
				保健体育科教育法Ⅱ	2	2	◎	◎	14
			保健体育科教育法Ⅲ	2	3	◎	◎	(6単位を超えて修得した単位数は★の単位にすることができる)	
			保健体育科教育法Ⅳ	2	3	◎	◎	(12単位を超えて修得した単位数は★の単位にすることができる)	
	道徳の指導法	2	3	◎	◎	◎			
	特別活動の指導法	2	2	◎	◎	◎			
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	2	3	◎	◎	◎			
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	生徒指導の理論及び方法	2	2	◎	◎	◎		
		進路指導の理論及び方法	2	2	◎	◎	◎		
教育実習	中5高3	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	2	3	◎	◎	◎		
		教育実習事前事後指導(中等)	1	4	◎	◎	3		
		教育実習Ⅰ(中等)	2	4	◎	◎	5		
教育実習Ⅱ(中等)	2	4	◎	◎	◎				
教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)	2	4	◎	◎	2		
教科に関する科目	20	体育実技	体ほぐし	1	3	◎	◎	◎	
			ダンス	1	1	◎	◎	◎	
			器械運動	1	1	◎	◎	◎	
			陸上運動	1	1	◎	◎	◎	
			バスケットボール	1	2	◎	◎	◎	
			バレーボール	1	2	◎	◎	◎	
			テニス	1	3	◎	◎	◎	
			ソフトボール	1	1	◎	◎	◎	
			サッカー	1	3	◎	◎	◎	
			ラグビー	1	2	◎	◎	◎	
		武道	1	3	◎	◎	◎		
		水泳	1	1	◎	◎	◎		
		[体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学]及び運動学(運動方法学を含む。)	スポーツ原理	2	1	◎	◎	◎	
			スポーツ心理学	2	2	◎	◎	◎	
			学校体育経営論	2	2	◎	◎	◎	
			スポーツ社会学	2	1	◎	◎	◎	
			スポーツ運動学	2	3	◎	◎	◎	
スポーツバイオメカニクス	2		2	◎	◎	◎			
スポーツ生理学	2		2	◎	◎	◎			
解剖生理学	2	2	◎	◎	◎				
衛生学及び公衆衛生学	2	2	◎	◎	◎				
学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。)	学校保健	2	3	◎	◎	◎			
	安全救急法	2	3	◎	◎	◎			
	安全救急法	2	3	◎	◎	◎			
★に教職に関する科目	中8高16	道徳教育の指導法(中等)	2	3	◎	◎	◎		
		免許法施行規則に定める最低修得単位数を超えて修得した「教科に関する科目」					★16		
免許法施行規則に定める最低修得単位数を超えて修得した「教職に関する科目」						★8			

○中学校の教員免許状を取得しようとする者は「介護等の体験」は必修となります

介護等の体験(7日間)			3	-	◎	7日間(2年の11月に説明会を予定)
-------------	--	--	---	---	---	--------------------

注① 実習内規を満たした者に限る。

注② 当該免許取得に必要な科目を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、教育実習Ⅰ・Ⅱ(中等)を辞退した場合は、履修を認めない。

⑧教育実習

教育実習を履修するには別に定める「教育実習に関する内規」の要件を満たさなければならない。
また、「教育実習事前事後指導」を併せて修得しなければならない。

⑨科目等履修制度

在学中に教育職員免許状の取得資格を得なかった本学卒業生が、その資格を得るために科目等履修生として教職科目を受講することができる。(科目等履修生規程)

◎神戸親和女子大学教育実習に関する内規

制定 昭和47年12月6日

(教育実習の履修資格 [1年次からの入学生])

第1条 教育実習を履修し得る学生は、学年始めの履修登録時において次の要件を満たしていなければならない。

- (1) 教職又はこれに関連する職種に就くことを希望していること。
- (2) 神戸親和女子大学学則(昭和41年4月1日制定)第8条に定める卒業必要単位のうち「教育実習Ⅰ(中等)」、「教育実習Ⅱ(中等)」、幼稚園で実施する「教育実習A(初等)」、「特別支援学校教育実習」を履修する場合は、93単位以上、小学校で実施する「教育実習A(初等)」については62単位以上、「教育実習B(初等)」については30単位以上を修得していること。
- (3) 次に示す科目の単位を修得していること。
 - ア 総合文化学科(ただし、2科目までの修得見込み可)
 - ㊦ 中学校教諭免許状(国語)及び高等学校教諭免許状(国語)取得希望者又は中学校教諭免許状(国語)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、国語科教育法ⅠA、国語科教育法ⅠB、国語科教育法ⅡA又は国語科教育法ⅡB、道徳教育の指導法(中等)、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - ㊧ 高等学校教諭免許状(国語)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、国語科教育法ⅠA、国語科教育法ⅠB、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - ㊨ 中学校教諭免許状(英語)及び高等学校教諭免許状(英語)取得希望者又は中学校教諭免許状(英語)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、英語科教育法ⅠA、英語科教育法ⅠB、英語科教育法ⅡA又は英語科教育法ⅡB、道徳教育の指導法(中等)、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - ㊩ 高等学校教諭免許状(英語)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、英語科教育法ⅠA、英語科教育法ⅠB、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - イ ジュニアスポーツ教育学科(ただし、2科目までの修得見込み可)
 - ㊦ 中学校教諭免許状(保健体育)及び高等学校教諭免許状(保健体育)取得希望者又は中学校教諭免許状(保健体育)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、保健体育科教育法Ⅰ、保健体育科教育法Ⅱ、保健体育科教育法Ⅲ又は保健体育科教育法Ⅳ、道徳教育の指導法(中等)、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - ㊧ 高等学校教諭免許状(保健体育)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、保健体育科教育法Ⅰ、保健体育科教育法Ⅱ、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - ウ 児童教育学科
 - ㊦ 小学校で実施する「教育実習A(初等)」(ただし、5科目まで修得見込み可)
教職論、教育原理、教育心理学、人権教育、教科教育法(国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育のうち5科目以上)、教育課程論(初等)、道徳教育の指導法(初等)、特別活動の指導法(初等)、教育方法・技術論(初等)、生徒・進路指導論(初等)
 - ㊧ 幼稚園で実施する「教育実習A(初等)」(ただし、5科目まで修得見込み可)
教職論、教育原理、教育心理学、人権教育、幼児教育課程論、保育内容(健康)、保育内容(人間関係)、保育内容(環境)、保育内容(言葉)、保育内容(表現)、保育内容(表現技術A)、保育内容(表現技術B)、教育方法・技術論(初等)

(編入学生の教育実習履修資格)

第2条 教育実習を履修し得る編入学生は、学年始めの履修登録時において次の要件を満たしていなければならない。

- (1) 教職又はこれに関連する職種に就くことを希望していること。
- (2) 次に示す科目の単位を修得していること。
 - ア 総合文化学科(ただし、4科目まで修得見込み可)
 - ㊦ 中学校教諭免許状(国語)及び高等学校教諭免許状(国語)取得希望者又は中学校教諭免許状(国語)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、国語科教育法ⅠA、国語科教育法ⅠB、国語科教育法ⅡA又は国語科教育法ⅡB、道徳教育の指導法(中等)、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - ㊧ 高等学校教諭免許状(国語)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、国語科教育法ⅠA、国語科教育法ⅠB、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - ㊨ 中学校教諭免許状(英語)及び高等学校教諭免許状(英語)取得希望者又は中学校教諭免許状(英語)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、英語科教育法ⅠA、英語科教育法ⅠB、英語科教育法ⅡA又は英語科教育法ⅡB、道徳教育の指導法(中等)、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - ㊩ 高等学校教諭免許状(英語)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、英語科教育法ⅠA、英語科教育法ⅠB、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - イ ジュニアスポーツ教育学科(ただし、4科目まで修得見込み可)
 - ㊦ 中学校教諭免許状(保健体育)及び高等学校教諭免許状(保健体育)取得希望者又は中学校教諭免許状(保健体育)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、保健体育科教育法Ⅰ、保健体育科教育法Ⅱ、保健体育科教育法Ⅲ又は保健体育科教育法Ⅳ、道徳教育の指導法(中等)、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - ㊧ 高等学校教諭免許状(保健体育)のみ取得希望者
教職論、教育原理、教育心理学、教育社会学、人権教育、教育課程論(中等)、保健体育科教育法Ⅰ、保健体育科教育法Ⅱ、特別活動の指導法(中等)、教育方法・技術論(中等)、生徒・進路指導論(中等)、教育相談(中等)
 - ウ 児童教育学科
 - ㊦ 小学校で実施する「教育実習A(初等)」(ただし、5科目まで修得見込み可)
教職論、教育原理、教育心理学、人権教育、教科教育法(国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育のうち5科目以上)、教育課程論(初等)、道徳教育の指導法(初等)、特別活動の指導法(初等)、教育方法・技術論(初等)、生徒・進路指導論(初等)
 - ㊧ 幼稚園で実施する「教育実習A(初等)」(ただし、5科目まで修得見込み可)
教職論、教育原理、教育心理学、人権教育、幼児教育課程論、保育内容(健康)、保育内容(人間関係)、保育内容(環境)、保育内容(言葉)、保育内容(表現)、保育内容(表現技術A)、保育内容(表現技術B)、教育方法・技術論(初等)

(その他の要件)

- 第3条 中学校教諭免許状(英語)取得希望及び高等学校教諭免許状(英語)取得希望の学生は、第1条又は前条の要件を満たし、かつ、実習前年度の3月末までに、TOEICで350点以上又は実用英語技能検定で2級以上を取得していることとする。
- 2 「特別支援学校教育実習」を履修することができる学生は、第1条の要件を満たし、かつ、1年次秋学期成績確定時(春学期の成績を含む)のGPAが特別支援学校教育実習取得希望者の上位50名であること。なお、GPAが同点の場合は、「教育原理」「教育心理学」「特別支援教育基礎理論」「肢体不自由児教育論」の合計点数順とする。さらに、同点者がいる場合は、「特別支援教育基礎理論」「肢体不自由児教育論」の合計点数順とする。

(教育実習受入校又は園の確保)

- 第4条 実習先については、出身校又は園の受け入れ及び大学の努力による斡旋が不可能な場合には、本人の努力によって受入校又は園の承諾を得ようとするものとする。
- 2 「特別支援学校教育実習」については、特別支援学校の設置校数が限定されるため、大学の斡旋する実習先が、遠方もしくは宿泊を伴う場合がある。

附 則

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

● 保育士課程（児童教育学科対象）

保育士は児童福祉法施行令による「児童福祉施設」において乳幼児や児童の保育及び保護者に対して保育に関する指導を行う職員のことをいいますが、保育士資格を得るためには、厚生労働大臣の指定する保育士養成校において別表のとおり、所定の単位を修得しなければなりません。

本学児童教育学科は、2001年度入学生より指定校の認定を受けました。したがって、下記に示す所定の単位を修得することにより保育士の資格を取得することができます。

履修方法

1. 教養科目 9単位以上（うち体育に関する講義及び実技、総合英語Ⅰ・Ⅱの計5単位を含む）
2. 必修科目 別表第1の欄に掲げる全ての科目
3. 選択必修科目 別表第2の欄に掲げる系列のうちから9単位以上（うち保育実習3単位以上を含む）

保育士課程には人数制限があります。保育士課程履修可能者は下記のとおり決定します。

《保育士課程履修可能者》

- ① 保育士又はこれに関連する職種に就くことを希望していること。
- ② 1年次春学期成績確定時に、「保育原理」「教育原理」「保育者論」を修得していること。
- ③ 1年次春学期成績確定時のGPAが保育士課程履修希望者の上位130名であること。なお、GPAが同点の場合は、「保育原理」「教育原理」「保育者論」の合計点数順とする。さらに、同点者がいる場合は、「保育原理」「保育者論」の合計点数順とする。
- ④ 「保育士課程履修説明会」に出席していること。（説明会日時については、掲示にて連絡）
- ⑤ 上記内容とともに授業や説明会への取り組み態度なども合わせて総合的に判断することとする。

《保育実習Ⅰ履修者確定》

- ① 「保育実習Ⅰ（保育所・施設）説明会」に出席していること。（説明会日時については、掲示にて連絡）
- ② 「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」の内規を満たしていること。

《保育実習Ⅱ・Ⅲ履修者確定》

- ① 「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」を修得済みであること。
- ② 「保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習Ⅲ（施設）説明会」に出席していること。（説明会日時については、掲示にて連絡）
- ③ 「保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習Ⅲ（施設）」の内規を満たしていること。

告示による教科目				左記に対応する本学開講科目				
系 列	教科目	授業形態	単位数	本学開講科目名	単位数		配当年次	備 考
					必修	選択		
教養科目	外国語、体育以外の科目	講義	8 単位以上	日本国憲法	2	1	4 単位以上	共通教育科目 学部内共通科目
		講義		子どもと人権	2	2		
		講義		環境教育論	2	2		
		講義		国際理解教育論	2	2		
		講義		子育てと社会	2	2		
	外国語	演習		総合英語Ⅰ	1	1	共通教育科目	
	体育	講義		総合英語Ⅱ	1	1	共通教育科目	
		講義		健康行動学	2	1	共通教育科目	
実技		基礎体育学	1	1	共通教育科目			
別表第1（必修科目）	保育の本質・目的に関する科目	講義	2	保育原理	2	1		
		講義	2	教育原理	2	1		
		講義	2	児童福祉論	2	2		
		講義	2	社会福祉論	2	3		
		演習	1	相談援助	1	4		
		講義	2	養護原理	2	2		
		講義	2	保育者論	2	1		
	保育の対象の理解に関する科目	講義	2	教育心理学	2	1		
		演習	1	保育の心理学	1	1		
		講義	4	子どもの保健ⅠA	2	3		
子どもの保健ⅠB				2	3			
演習		1	子どもの保健Ⅱ	1	3			
保育の内容・方法に関する科目	講義	2	幼児教育課程論	2	3			
			保育内容総論	2	4			
	演習	5	保育内容（健康）	2	2			
			保育内容（人間関係）	2	2			
			保育内容（環境）	2	2			
			保育内容（言葉）	2	2			
			保育内容（表現）	2	2			
	演習	2	乳児保育Ⅰ	2	2			
	演習	2	障害児保育Ⅰ	2	3			
	演習	1	養護内容	2	2			
演習	1	保育相談支援	1	4				
保育の表現技術	演習	4	保育内容（表現技術A）	2	2			
			保育内容（表現技術B）	2	2			
保育実習	実習	4	保育実習Ⅰ（保育所・施設）	4	2			
	演習	2	保育実習指導Ⅰ（保育所・施設）	2	1			
総合演習	演習	2	保育実践演習	2	4			

告示による教科目				左記に対応する本学開講科目							
系 列	教 科 目	授 業 形 態	単 位 数	本学開講科目名	単 位 数		配 当 年 次	備 考			
					必 修	選 択					
別表第2 (選択必修科目)	保育の本質・目的に関する科目		6 単 位 以 上	保育学入門		2	1	1年次を履修すること 6 単 位 以 上			
	保育の対象の理解に関する科目			子ども理解・教育相談		2	3				
	保育の内容・方法に関する科目			幼児心理学		2	1				
	保育の表現技術				乳児保育Ⅱ		2		3		
					障害児保育Ⅱ		2		3		
					音楽Ⅰ		1		1		
					音楽Ⅱ		1		2		
					美術Ⅰ		1		1		
					美術Ⅱ		1		1		
					体育Ⅰ		1		1		
	保育実習	保育実習Ⅱ		実習	2	保育実習Ⅱ (保育所)			2	3	3 単 位 以 上
		保育実習指導Ⅱ		演習	1	保育実習指導Ⅱ (保育所)			1	3	
		保育実習Ⅲ		実習	2	保育実習Ⅲ (施設)			2	3	
保育実習指導Ⅲ		演習	1	保育実習指導Ⅲ (施設)		1	3				

保育実習

実 習 種 別	履 修 方 法			実 習 施 設
	施設におけるおおむねの実習日数	単 位 数	(内 訳)	
保育実習Ⅰ (必修科目)	20日	4	(2) 保育所 (2) 乳児院、母子生活支援施設、障害児入所支援施設、児童発達支援センター (児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る)、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所 (生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る)、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一次保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のみ	
保育実習Ⅱ (選択必修科目)	10日	2	保育所	
保育実習Ⅲ (選択必修科目)	10日	2	児童厚生施設又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの (保育所は除く。)	

保育実習の流れ

1年	保育士課程履修説明会 (6月) 保育士課程履修可能者130名決定 (1年次春学期成績確定後) 保育実習Ⅰ (保育所・施設) 説明会 (9月末) 保育実習指導Ⅰ (保育所・施設) (1年次12月～2年次12月) 保育実習Ⅰ (保育所・施設) 内規判定 (1年次秋学期成績確定後)
2年	保育実習Ⅱ (保育所)・保育実習Ⅲ (施設) 説明会 (7月) 保育実習Ⅰ (保育所) (8月・9月) 保育実習Ⅰ (施設) (10月～11月) 保育実習Ⅱ (保育所)・保育実習Ⅲ (施設) 内規判定 (2年次秋学期成績確定後)
3年	保育実習指導Ⅱ (保育所)・保育実習指導Ⅲ (施設) (4月～12月) 保育実習Ⅱ (保育所)・保育実習Ⅲ (施設) (8月・9月)

☆「保育実習Ⅰ (保育所・施設)」は必修、「保育実習Ⅱ (保育所)」「保育実習Ⅲ (施設)」はどちらかを選択履修のこと。
☆保育実習に関する連絡は全て掲示にて行う。
☆保育士登録については、4年次に説明会を行う。

◎神戸親和女子大学発達教育学部保育士課程科目の履修に関する内規

制定 平成20年9月24日

(趣旨及び課程の履修資格)

- 第1条 神戸親和女子大学学則 (昭和41年4月1日制定。以下「学則」という。) 第8条第7項に基づき科目の履修について定める。
2 保育士課程を履修し得る学生は、当該学科の1年次入学生で、保育士又はこれに関連する職種に就くことを希望していなければならない。
3 児童教育学科における入学定員195名のうち、保育士課程指定定員は130名とする。
4 福祉臨床学科における保育士課程指定定員は40名とする。
5 第3項及び第4項に定める保育士課程指定定員を超える希望者がある場合の保育士課程履修可能者の決定方法については、別にこれを定める。

(保育実習の履修資格)

第2条 保育実習を履修し得る学生は、次に示す各項の要件を満たしていなければならない。

- (1) 児童教育学科
 - ア 保育実習Ⅰ (保育所・施設)
 - ㊦ 学則第8条に定める卒業要件単位数のうち、35単位以上を修得していること。
 - ㊧ ㊦には次の科目を含んでいること。
保育原理、保育者論、教育原理
 - イ 保育実習Ⅱ (保育所) 及び保育実習Ⅲ (施設)
 - ㊦ 保育実習Ⅰ (保育所・施設) を修得済みであること。
 - ㊧ 次の科目を修得していること。ただし、2科目まで修得見込み可とする。
児童福祉論、養護原理、保育の心理学、保育内容 (健康)、保育内容 (人間関係)、保育内容 (環境)、保育内容 (言葉)、保育内容 (表現)、乳児保育Ⅰ、養護内容
- (2) 福祉臨床学科
<割愛>

(保育士課程科目の授業及び単位数の計算)

第3条 保育士課程科目の授業及び単位数の計算は、学則第9条に定めるところによる。ただし、保育実習Ⅰ (保育所・施設)、保育実習Ⅱ (保育所)、保育実習Ⅲ (施設) については40時間の授業をもって1単位、保育実習指導Ⅰ (保育所・施設)、保育実習指導Ⅱ (保育所)、保育実習指導Ⅲ (施設) については30時間の授業をもって1単位とする。

(保育実習の日時数)

第4条 保育実習の実施に当たっては、その期間中に、10日以上80時間以上を確保する。

(評価方法)

第5条 保育士課程科目の評価については、2/3以上の出席を必要とし、レポート、試験、実習などにより総合的に評価を行う。ただし、保育実習事前事後指導及び保育実践演習については、4/5以上の出席を必要とする。

(平成22年以前の入学生の単位認定)

第6条 平成22年以前の入学生が別表第1-1又は1-2の第1欄を修得したときは、当該の第2欄の授業科目を修得したものと単位認定を行うものとする。

附 則

- 1 この内規は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行の日をもって、神戸親和女子大学保育実習に関する内規 (平成13年3月7日制定) は廃止する。

附 則 (省略)

附 則

この内規は、平成30年4月1日から施行する。

● 保育士課程（福祉臨床学科対象）

保育士は児童福祉法施行令による「児童福祉施設」において乳幼児や児童の保育及び保護者に対して保育に関する指導を行う職員のことをいいますが、保育士資格を得るためには、厚生労働大臣の指定する保育士養成校において別表のとおり、所定の単位を修得しなければなりません。

本学福祉臨床学科は、2006年度入学生より指定校の認定を受けました。したがって、下記に示す所定の単位を修得することにより保育士の資格を取得することができます。

履修方法

1. 教養科目 9単位以上（うち体育に関する講義及び実技、総合英語Ⅰ・Ⅱの計5単位を含む）
2. 必修科目 別表第1の欄に掲げる全ての科目
3. 選択必修科目 別表第2の欄に掲げる系列のうちから9単位以上（うち保育実習3単位以上を含む）
4. 本学特設科目

保育士課程には人数制限があります。保育士課程履修可能者は下記のとおり決定します。

《保育士課程履修可能者》

- ① 保育士又はこれに関連する職種に就くことを希望していること。
- ② 1年次春学期成績確定時に、「保育原理」「教育原理」「保育者論」を修得していること。
- ③ 1年次春学期成績確定時のGPAが保育士課程履修希望者の上位40名であること。なお、GPAが同点の場合は、「保育原理」「教育原理」「保育者論」の合計点数順とする。さらに、同点者がいる場合は、「保育原理」「保育者論」の合計点数順とする。
- ④ 「保育士課程履修説明会」に出席していること。（説明会日時については、掲示にて連絡）
- ⑤ 上記内容とともに授業や説明会への取り組み態度なども合わせて総合的に判断することとする。

《保育実習Ⅰ履修者確定》

- ① 「保育実習Ⅰ（保育所・施設）説明会」に出席していること。（説明会日時については、掲示にて連絡）
- ② 「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」の内規を満たしていること。

《保育実習Ⅱ・Ⅲ履修者確定》

- ① 「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」を修得済みであること。
- ② 「保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習Ⅲ（施設）説明会」に出席していること。（説明会日時については、掲示にて連絡）
- ③ 「保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習Ⅲ（施設）」の内規を満たしていること。

告示による教科目				左記に対応する本学開講科目					
系 列	教科目	授業形態	単位数	本学開講科目名	卒業要件単位		E(カテゴリー) 配当年次	資格取得要件	備 考
					必修	選択			
教養科目	外国語、体育以外の科目	講義	8単位以上	日本国憲法		2	1	○	4単位以上 共通教育科目 学部内共通科目
		講義		子どもと人権		2	2	○	
		講義		環境教育論		2	2	○	
		講義		国際理解教育論		2	2	○	
		講義		子育てと社会		2	2	○	
	外国語	演習	総合英語Ⅰ	1		1	○	共通教育科目	
	体育	講義 実技	総合英語Ⅱ 健康行動学 基礎体育学	1 2		1 1 1	○ ○ ○	共通教育科目 共通教育科目 共通教育科目	
別表第1（必修科目）	保育の本質・目的に関する科目	講義	2	保育原理		2	1	○	
		講義	2	教育原理			2	1	○
		講義	2	児童家庭福祉	2		2	○	
		講義	2	社会福祉	2		1	○	
		演習	1	相談援助		1	1	○	
		講義	2	社会的養護		2	2	○	
		講義	2	保育者論		2	1	○	
	保育の対象の理解に関する科目	講義	2	保育の心理学Ⅰ		2	1	○	1年次を履修すること
		演習	1	保育の心理学Ⅱ			1	○	
		講義	4	子どもの保健Ⅰ		2	3	○	
演習		1	子どもの保健Ⅱ		1	3	○		
演習		2	子どもの食と栄養		2	3	○		
保育の内容・方法に関する科目	講義	2	保育課程論		2	3	○		
	演習	1	保育内容総論			2	4	○	
	保育内容演習	演習	5	保育内容Ⅰ		2	1	○	
		演習	2	保育内容Ⅱ		2	2	○	
		演習	2	保育内容Ⅲ		2	2	○	
	演習	2	乳児保育		2	2	○		
	演習	2	障害児保育		2	3	○		
	演習	1	社会的養護内容		2	2	○		
演習	1	保育相談支援		1	4	○			
保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	保育内容（表現技術A）		2	2	○	
		演習	4	保育内容（表現技術B）		2	2	○	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ（保育所・施設）	4		2	○	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ（保育所・施設）	2		1	○	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育実践演習	2		4	○	

告示による教科目				左記に対応する本学開講科目						
系 列	教 科 目	授 業 形 態	単 位 数	本学開講科目名	卒業要件単位		[イ/ア/ウ/エ]	配 当 年 次	資 格 取 得 要 件	備 考
					必 修	選 択				
別表第2 (選択必修科目)	保育の本質・目的に関する科目			社会福祉概論Ⅱ	2			1	○	6 単 位 以 上 学 部 内 共 通 科 目
				老人福祉論	2			2	○	
	保育の対象の理解に関する科目			地域福祉論Ⅰ	2			2	○	
				児童心理学			2	1	○	
	保育の内容・方法に関する科目			青年心理学		2		2	○	
				障害児保育Ⅱ			2	3	○	
				障害者福祉論	2			2	○	
				養護児童援助論		2		3	○	
	保育の表現技術			音楽Ⅰ		1		1	○	
				音楽Ⅱ		1		1	○	
造形Ⅰ					1		1	○		
造形Ⅱ					1		1	○		
保育実習		実習	保育実習Ⅱ (保育所)		2		3	○		
			保育実習指導Ⅱ (保育所)		1		3	○		
			保育実習Ⅲ (施設)		2		3	○		
			保育実習指導Ⅲ (施設)		1		3	○		
科 特 設	本学特設科目		福祉施設実地研修		2		3	○	隔年開講 (本年度開講)	
			海外福祉研修		2		2	○		

保育実習

実 習 種 別	履 修 方 法		実 習 施 設
	施設におけるおおむねの実習日数	単 位 数	
保育実習Ⅰ (必修科目)	20日	4	(2) 保育所 (2) 乳児院、母子生活支援施設、障害児入所支援施設、児童発達支援センター (児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る)、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所 (生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る)、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一次保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
保育実習Ⅱ (選択必修科目)	10日	2	保育所
保育実習Ⅲ (選択必修科目)	10日	2	児童厚生施設又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって保育実習を行う施設として適当と認められるもの (保育所は除く。)

保育実習の流れ

1年	保育士課程履修説明会 (6月) 保育士課程履修見込者40名決定 (1年次春学期成績確定後) 保育実習Ⅰ (保育所・施設) 説明会 (9月末) 保育実習指導Ⅰ (保育所・施設) (1年次12月～2年次12月) 保育実習Ⅰ (保育所・施設) 内規判定 (1年次秋学期成績確定後)
2年	保育実習Ⅱ (保育所)・保育実習Ⅲ (施設) 説明会 (7月) 保育実習Ⅰ (保育所) (8月・9月) 保育実習Ⅰ (施設) (10月～11月) 保育実習Ⅱ (保育所)・保育実習Ⅲ (施設) 内規判定 (2年次秋学期成績確定後)
3年	保育実習指導Ⅱ (保育所)・保育実習指導Ⅲ (施設) (4月～12月) 保育実習Ⅱ (保育所)・保育実習Ⅲ (施設) (8月・9月) <保のみ取得希望者> 保育実習Ⅱ (保育所)・保育実習Ⅲ (施設) (2月) <保・社福を取得希望者>

☆「保育実習Ⅰ (保育所・施設)」は必修、「保育実習Ⅱ (保育所)」 「保育実習Ⅲ (施設)」はどちらかを選択履修のこと。
 ☆保育実習に関する連絡は全て掲示にて行う。
 ☆保育士登録については、4年次に説明会を行う。

◎神戸親和女子大学発達教育学部保育士課程科目の履修に関する内規

制定 平成20年9月24日

(趣旨及び課程の履修資格)

- 第1条 神戸親和女子大学学則 (昭和41年4月1日制定。以下「学則」という。)第8条第7項に基づき科目の履修について定める。
 2 保育士課程を履修し得る学生は、当該学科の1年次入学生で、保育士又はこれに関連する職種に就くことを希望していなければならない。
 3 児童教育学科における入学定員195名のうち、保育士課程指定定員は130名とする。
 4 福祉臨床学科における保育士課程指定定員は40名とする。
 5 第3項及び第4項に定める保育士課程指定定員を超える希望者がある場合の保育士課程履修可能者の決定方法については、別にこれを定める。

(保育実習の履修資格)

第2条 保育実習を履修し得る学生は、次に示す各項の要件を満たしていなければならない。

- (1) 児童教育学科 <割愛>
- (2) 福祉臨床学科
 - ア 保育実習Ⅰ (保育所・施設)
 - ㊦ 学則第8条に定める卒業要件単位数のうち、35単位以上を修得していること。
 - ㊧ ㊦には次の科目を含んでいること。
保育原理、教育原理、保育者論
 - イ 保育実習Ⅱ (保育所)及び保育実習Ⅲ (施設)
 - ㊦ 保育実習Ⅰ (保育所・施設)を修得済みであること。
 - ㊧ 次の科目を修得していること。ただし、2科目まで修得見込み可とする。
児童福祉論、養護原理、幼児心理学、保育の心理学、保育内容Ⅰ、保育内容Ⅱ、保育内容Ⅲ、乳児保育Ⅰ、養護内容

(保育士課程科目の授業及び単位数の計算)

第3条 保育士課程科目の授業及び単位数の計算は、学則第9条に定めるところによる。ただし、保育実習Ⅰ (保育所・施設)、保育実習Ⅱ (保育所)、保育実習Ⅲ (施設)については40時間の授業をもって1単位、保育実習指導Ⅰ (保育所・施設)、保育実習指導Ⅱ (保育所)、保育実習指導Ⅲ (施設)については30時間の授業をもって1単位とする。

(保育実習の日時数)

第4条 保育実習の実施に当たっては、その期間中に、10日以上80時間以上を確保する。

(評価方法)

第5条 保育士課程科目の評価については、2/3以上の出席を必要とし、レポート、試験、実習などにより総合的に評価を行う。ただし、保育実習事前事後指導及び保育実践演習については、4/5以上の出席を必要とする。

(平成22年以前の入学生の単位認定)

第6条 平成22年以前の入学生が別表第1-1又は1-2の第1欄を修得したときは、当該の第2欄の授業科目を修得したものと単位認定を行うものとする。

附 則

- 1 この内規は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行の日をもって、神戸親和女子大学保育実習に関する内規 (平成13年3月7日制定)は廃止する。

附 則 (省略)

附 則

この内規は、平成30年4月1日から施行する。

● 社会福祉士国家試験受験資格取得要件科目（福祉臨床学科対象）

社会福祉士国家試験受験資格

「社会福祉士及び介護福祉士法」では社会福祉士を次のように定義しています。

「社会福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は、環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うことを業とする者」

社会福祉士になるためには、社会福祉士国家試験を受験し、合格しなければなりません。しかし、国家試験は誰もがすぐに受験できるというものではなく、試験を受けるための＜受験資格＞が必要になります。

福祉臨床学科では、受験資格取得「指定科目」を整備しています。その科目を全て履修することにより＜受験資格＞を得ることができます。

資格取得における必修科目は◎、選択科目は○

厚生労働省指定科目	本学開講科目名	卒業要件としての単位		配当年次	資格要件	備考
		必修	選択			
人体の構造と機能及び疾病	医学一般		2	3	○	1科目必修 共通教育科目
心理学理論と心理的支援	心理学概論		2	1	○	
社会理論と社会システム	社会学		2	1	○	
現代社会と福祉	社会福祉概論Ⅰ	2		1	◎	
	社会福祉概論Ⅱ	2		1	◎	
社会調査の基礎	社会調査の基礎		2	3	◎	
相談援助の基盤と専門職 相談援助の理論と方法	社会福祉援助技術論Ⅰ	2		1	◎	
	社会福祉援助技術論Ⅱ	2		1	◎	
	社会福祉援助技術論Ⅲ		2	2	◎	
	社会福祉援助技術論Ⅳ		2	2	◎	
地域福祉の理論と方法	地域福祉論Ⅰ	2		2	◎	
	地域福祉論Ⅱ		2	2	◎	
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画		2	4	◎	
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営		2	4	◎	
社会保障	社会保障論Ⅰ		2	2	◎	
	社会保障論Ⅱ		2	2	◎	
高齢者に対する支援と介護保険制度	老人福祉論	2		2	◎	
	介護概論		2	3	◎	
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2		2	◎	
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論	2		2	◎	
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論		2	3	◎	
保健医療サービス	保健医療サービス		2	4	◎	
就労支援サービス	就労支援サービス		1	4	○	1科目必修
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度		2	4	○	
更生保護制度	更生保護制度		1	4	○	
相談援助演習	相談援助演習Ⅰ		1	1	◎	
	相談援助演習Ⅱ		1	2	◎	「Ⅰ」修得者に限る
	相談援助演習Ⅲ		1	2	◎	「Ⅰ」修得者に限る
	相談援助演習Ⅳ		1	3	◎	「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」修得者に限る
	相談援助演習Ⅴ		1	3	◎	「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」修得者に限る
相談援助実習指導	相談援助実習指導Ⅰ		1	2	◎	「社会福祉援助技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」を修得もしくは履修中である者に限る。ただし、当該科目受講年度の春学期末でこれらすべての科目を修得できなかった場合は、履修を認めない。
	相談援助実習指導Ⅱ		1	3	◎	「Ⅰ」修得者に限る
	相談援助実習指導Ⅲ		1	3	◎	「Ⅰ」修得者に限る
相談援助実習	相談援助実習		4	3	◎	内規を満たした者に限る

◎神戸親和女子大学発達教育学部福祉臨床学科社会福祉士国家試験受験資格要件科目の履修に関する内規（抜粋）

制定 平成20年9月24日

（趣旨及び開講科目）

第1条 神戸親和女子大学学則（昭和41年4月1日制定）第8条第9項に基づき科目の履修を定める。

2 厚生労働省の定める社会福祉士実習演習科目の履修は、別表第1のとおりとする。

（実習演習科目の履修資格）

第2条 実習演習科目を履修しようとする学生は、次の要件を満たしていなければならない。

- (1) 社会福祉に関連する職種に就くことを希望していること。
- (2) 次に示す各項の要件を満たすこと。

ア 相談援助実習

(ア) 次の科目を修得済みであること。

社会福祉援助技術論Ⅰ
社会福祉援助技術論Ⅱ
社会福祉援助技術論Ⅲ
社会福祉援助技術論Ⅳ

相談援助演習Ⅰ
相談援助演習Ⅱ
相談援助演習Ⅲ
相談援助実習指導Ⅰ

(イ) 次の科目を修得済み又は修得見込みであること。

相談援助演習Ⅳ
相談援助演習Ⅴ
相談援助実習指導Ⅱ
相談援助実習指導Ⅲ

イ 相談援助実習指導Ⅱ

次の科目を修得済みであること。

相談援助実習指導Ⅰ

（相談援助実習の受入機関・施設の範囲）

第3条 相談援助実習が可能な施設又は事業は、社会福祉士介護福祉士学校職業能力開発校等養成施設指定規則（昭和62年厚生省令第50号）第5条第1号フに規定する厚生労働大臣が別に定める施設又は事業とする。

（単位数の計算）

第4条 別表第1に定める科目の単位数は、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、相談援助実習については、45時間の授業をもって1単位とする。

（相談援助実習の日時数）

第5条 相談援助実習の実施に当たっては、その期間中に180時間以上（23日以上を原則とする。）を確保する。

（相談援助実習の地域）

第6条 相談援助実習の実施に当たっては、原則として、神戸市近郊の地域で行うものとする。

（評価方法）

第7条 別表第1に定める演習科目の評価については、2/3以上の出席を必要とし、レポート、実習・演習への参加などにより総合的に評価を行う。また、相談援助実習指導については4/5以上の出席を必要とする。

（平成20年度以前の入学生の単位認定）

第8条 （省略）

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行し、改正後の第5条の規定を平成26年4月1日現在在籍する者も適用する。

別表第1（第1条関係）社会福祉士実習演習科目

厚生労働省指定科目	本学開講科目	授業形態	単位数	配当年次	修得要件
相談援助演習	相談援助演習Ⅰ	演習	1	1	必修
	相談援助演習Ⅱ		1	2	必修
	相談援助演習Ⅲ		1	2	必修
	相談援助演習Ⅳ		1	3	必修
	相談援助演習Ⅴ		1	3	必修
相談援助実習指導	相談援助実習指導Ⅰ	実習	1	2	必修
	相談援助実習指導Ⅱ		1	3	必修
	相談援助実習指導Ⅲ		1	3	必修
相談援助実習	相談援助実習	実習	4	3	必修

別表第2（第8条関係）平成20年度以前の入学生の単位認定一覧（省略）

● 司書課程（全学科対象）

図書館法には、「図書館とは、図書、記録、その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」と規定しています。またそこに勤務する職員について「図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する」とし「司書は、図書館の専門的業務に従事する」とも規定されており、図書館の専門職員として十分な知識を備えた司書を、各図書館に配置するようになっています。したがって、卒業後、図書館へ就職を希望する際には、司書の資格を取得しておくことが必要な条件となります。さらに官庁、学校、あるいは新聞社、放送局、各種企業等においても、図書館、あるいは資料室などの要員として、司書有資格者は歓迎される傾向が出てきています。また、その図書館法には、その資格取得の条件として「大学を卒業した者で大学において図書館に関する科目を履修したもの」としてあり、本学では、図書館司書に関する科目を設けて、司書資格の取得に便宜を計っています。この図書館司書に関する科目に耳慣れない科目もあり、また、かなり実務的な面の強い科目でもあります。その点では、これら司書課程の科目もまた、各学科の専門科目の例にもれず忍耐強く学習していただかねばならない科目でもあります。

○司書課程の全必修科目及び選択科目から2科目以上、合計26単位以上を修得すれば司書となる資格が与えられ、卒業時に「図書館司書資格証明書」が授与されます。

授 業 科 目 名		単 位		配当年次	備 考	
		必 修	選 択			
司書資格取得に関する科目	必修科目	生涯学習概論	2		2	
		図書館概論	2		1	
		図書館情報技術論	2		2	
		図書館制度・経営論	2		3	
		図書館サービス概論	2		2	
		情報サービス論	2		3	
		児童サービス論	2		2	
		情報サービス演習Ⅰ	1		3	
		情報サービス演習Ⅱ	1		3	
		図書館情報資源概論	2		2	
		情報資源組織論	2		3	
		情報資源組織演習Ⅰ	1		4	
	情報資源組織演習Ⅱ	1		4		
	選択科目	図書館基礎特論	(4) (2科目以上必修)	2	4	
		図書館サービス特論		2	4	
図書・図書館史		2		3		
図書館施設論		2		3		

● 司書教諭課程（総合文化学科・児童教育学科・ジュニアスポーツ教育学科対象）

司書教諭とは学校図書館に関する専門的な知識・技術を修得した教員のことです。この司書教諭の学校図書館配置については、平成9年6月、「学校図書館法」の一部改正が行われて、平成15年4月1日以降は、12学級以上の全ての学校図書館には司書教諭を配置しなければならなくなりました。また、平成10年3月には、「学校図書館司書教諭講習規程」の一部改正が行われ、その講習内容の現代化と、それに教員免許取得前の受講がはじめて可能（大学に2年以上在学する学生で62単位以上を修得した者）になりました。本学でもこれを機に、平成12年度より「司書教諭課程」を新設し、「学校経営と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「学習指導と学校図書館」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」（5科目10単位）の科目を開講して、本学在学中に司書教諭資格取得の便を計っております。

なお、この司書教諭の資格は、司書資格とは異なり、**教員免許状を取得することが絶対条件となります**ので「教職課程」の科目とは並行受講することになります。したがって必修科目等との重なりがでてきて思わぬアクシデントに見舞われるかもしれませんので、「司書教諭課程」を受講する場合は、すべて早目に受講計画を立てて、そして着実に忍耐強く学習してください。

○必修科目5科目10単位を修得してください。

○下記単位を修得したものは、文部科学省より「学校図書館司書教諭講習修了証書」が授与されます。ただし、この証書は、教育職員免許法に定める学校教諭の普通免許状（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）を有する者について効力を生じますので、注意してください。

授 業 科 目 名	単 位		配当年次	備 考
	必 修	選 択		
司書教諭資格取得に関する科目	学校経営と学校図書館	2	1	
	学校図書館メディアの構成	2	2	
	学習指導と学校図書館	2	1	
	読書と豊かな人間性	2	2	
	情報メディアの活用	2	2	

※受講生が多い場合は、高学年を優先とします。

〈重 要〉

- 大学を通じて、文部科学省に「学校図書館司書教諭講習（書類参加）」申請書類を一括提出します。申請手続きについては、秋学期に説明会をおこないます。掲示等を確認してください。（教員免許状の手続きとは異なりますので、注意してください。）

● 日本語教員資格関係科目（主専攻）（総合文化学科対象）

日本語教員とは、日本語を母語としない人（主に外国人）に日本語を外国語として教授する教員資格をいいます。本学では、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語教育能力検定試験」に合格する能力をつけることを目標として下記の科目を開講しています。これらの科目を修得した者には、卒業時にそれぞれ「日本語教育科目単位修得証明書」が授与されます。

日本語教員資格関係科目（主専攻）の履修については、
必修科目34単位以上及び選択科目として「言語と心理」区分から4単位を含む12単位以上、合計46単位以上修得すること。

ここでいう必修及び選択は、日本語教員資格を取得するためのことを示しています。

◎他学科より提供された科目はエクステンション科目として、専門教育科目群内の選択科目に含めることができます。

◎提供元が共通教育となっている科目は、共通教育科目の卒業要件単位として認定されます。

区分	授業科目名	単位		配当年次	提供元	備考
		必修	選択			
社会・文化・地域	茶花道文化史		2	3	総合文化学科	
	日本芸能論		2	3	総合文化学科	
	日本文化史	2		3	総合文化学科	
	日本文学講読（現代）	2		3	総合文化学科	
	日本文学講読（古典）		2	3	総合文化学科	
	比較文化論		2	2	総合文化学科	
	英米文化概論		2	1	総合文化学科	
	女性学		2	1	共通教育	
	社会学		2	1	共通教育	
	多文化社会		2	2	共通教育	
	日本史		2	1	共通教育	
	東洋史		2	1	共通教育	
	海外教育実地研究		3	2	児童教育学科	
海外芸術・教育研修		3	1	児童教育学科		
言語と社会	ジャーナリズム論		2	3	総合文化学科	
	社会言語学	2		3	総合文化学科	
	異文化コミュニケーション論	2		3	総合文化学科	
	ビジネス英語		1	2	総合文化学科	
	翻訳ワークショップ		1	3	総合文化学科	
	通訳ワークショップ		1	3	総合文化学科	
言語と心理	心理学概論		2	1	共通教育	
	教育・学校心理学		2	3	心理学科	「言語と心理」区分から4単位以上修得すること。
	知覚・認知心理学		2	2	心理学科	
	教育心理学		2	2	教職課程	
言語と教育	日本語教授法	2		2	総合文化学科	
	日本語教育の問題点	2		3	総合文化学科	
	日本語教育実習（海外）	3		2	総合文化学科	海外か国内のいずれかを修得すること。
	日本語教育実習（国内）	2		4	総合文化学科	
	海外語学研修		2	1	総合文化学科	
	総合文化専門演習Ⅰ	2		3	総合文化学科	
	総合文化専門演習Ⅱ	2		3	総合文化学科	
	総合文化専門演習Ⅲ	2		4	総合文化学科	
	総合文化専門演習Ⅳ	2		4	総合文化学科	
	国際理解教育論	2		2	共通教育	
	海外英語研修		4	1	共通教育	
情報と社会	2		2	共通教育		
言語	日本語音声学	2		2	総合文化学科	
	日本語学概論	2		2	総合文化学科	
	日本語史		2	3	総合文化学科	
	日本語文法（古典）		2	2	総合文化学科	
	日本語文法（現代）	2		2	総合文化学科	
	対照言語学	2		3	総合文化学科	
	話し方の技術		2	2	総合文化学科	
	文章の技術		2	2	総合文化学科	
	英語の文法		2	1	総合文化学科	
	Interactive English Ⅲ		1	2	共通教育	
	Interactive English Ⅳ		1	2	共通教育	

● 日本語教員資格関係科目（副専攻）（全学科対象）

日本語教員とは、日本語を母語としない人（主に外国人）に日本語を外国語として教授する教員資格をいいます。本学では、財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語教育能力検定試験」に合格する能力をつけることを目標として下記の科目を開講しています。

主専攻は、総合文化学科の学生を対象としています。副専攻は、全学科の学生を対象とします。下表は副専攻の修得条件を示しています。主専攻、副専攻としてこれらの科目を修得した者には、卒業時にそれぞれ「日本語教育科目単位修得証明書」が授与されます。

日本語教員資格関係科目（副専攻）の履修について
必修科目22単位以上及び選択科目として「言語と心理」区分から2単位を含む8単位以上、合計30単位以上修得すること。

ここでいう必修及び選択は、日本語教員資格を取得するためのことを示しています。

◎他学科より提供された科目はエクステンション科目として、専門教育科目群内の選択科目に含めることができます。

◎提供元が共通教育となっている科目は、共通教育科目の卒業要件単位として認定されます。

区分	授業科目名	単位		配当年次	提供元	備考
		必修	選択			
社会・文化・地域	茶花道文化史		2	3	総合文化学科	
	日本芸能論		2	3	総合文化学科	
	日本文化史	2		3	総合文化学科	
	日本文学講読（現代）		2	3	総合文化学科	
	日本文学講読（古典）		2	3	総合文化学科	
	比較文化論		2	2	総合文化学科	
	英米文化概論		2	1	総合文化学科	
	女性学		2	1	共通教育	
	社会学		2	1	共通教育	
	多文化社会		2	2	共通教育	
	日本史		2	1	共通教育	
	東洋史		2	1	共通教育	
	海外教育実地研究		3	2	児童教育学科	
	海外芸術・教育研修		3	1	児童教育学科	
言語と社会	ジャーナリズム論		2	3	総合文化学科	
	社会言語学	2		3	総合文化学科	
	異文化コミュニケーション論	2		3	総合文化学科	
	ビジネス英語		1	2	総合文化学科	
	翻訳ワークショップ		1	3	総合文化学科	
	通訳ワークショップ		1	3	総合文化学科	
言語と心理	心理学概論		2	1	共通教育	「言語と心理」区分から2単位以上修得すること。
	教育・学校心理学		2	3	心理学科	
	知覚・認知心理学		2	2	心理学科	
	教育心理学		2	1	児童教育学科のみ履修可	
	教育心理学		2	2	教職課程	
言語と教育	日本語教授法	2		2	総合文化学科	海外か国内のいずれかを修得すること。
	日本語教育の問題点	2		3	総合文化学科	
	日本語教育実習（海外）	3		2	総合文化学科	
	日本語教育実習（国内）	2		4	総合文化学科	
	国際理解教育論	2		2	共通教育	
	海外英語研修		4	1	共通教育	
	情報と社会		2	2	共通教育	
言語	日本語音声学	2		2	総合文化学科	
	日本語学概論	2		2	総合文化学科	
	日本語史		2	3	総合文化学科	
	日本語文法（古典）		2	2	総合文化学科	
	日本語文法（現代）	2		2	総合文化学科	
	対照言語学	2		3	総合文化学科	
	話し方の技術		2	2	総合文化学科	
	文章の技術		2	2	総合文化学科	
	英語の文法		2	1	総合文化学科	
	Interactive English III		1	2	共通教育	
	Interactive English IV		1	2	共通教育	

● 認定心理士資格要件（心理学科対象）

認定心理士の資格認定を受けようとするものは、下記の開講科目から合計36単位以上を修得し、所定の申請書類を日本心理学会認定心理士資格委員会に提出しなければなりません。

なお、履修に当たっては、次の事項に注意してください。

- 基礎科目（a）領域から4単位以上、（b）（c）領域から計8単位以上修得し、合計で12単位以上修得すること。ただし、（c）領域からは4単位を修得すること。
- 選択科目（d）～（h）の5領域のうち、3領域で各4単位以上を満たし、合計が16単位以上になるように修得すること。
- 残りの8単位以上は（a）～（i）の任意の科目で充当すること。
 - ・「学習心理学」は、エクステンション科目として、専門教育科目群内の選択科目に含めることができます。

	認定領域	本学開講科目名	単位数	配当年次	提供元	備考
基礎科目	(a) 心理学概論	心理学概論	2	1	共通教育	
		発達心理学概論	(2)	1		1単位のみ認定
		臨床心理学概論	(2)	1		1単位のみ認定
	(b) 心理学研究法	心理学研究法Ⅰ	2	2		
		心理学研究法Ⅱ	2	3		
		心理学統計法	2	2		
		情報と統計	(2)	1		1単位のみ認定
	(c) 心理学実験・実習	心理学実験・実習A	1	1		
		心理学実験・実習B	1	1		
		心理学実験	1	3		
		社会心理学実験・実習	2	3		
		臨床心理学実習	(1)	2		0.5単位のみ認定
	心理的アセスメント	(1)	3		0.5単位のみ認定	
選択科目	(d) 知覚心理学 学習心理学	学習・言語心理学	2	2		
		学習心理学	2	3	児童教育学科	
		知覚・認知心理学	2	2		
	(e) 比較心理学 生理心理学	神経・生理心理学	2	3		
		神経心理学	2	2		
	(f) 教育心理学 発達心理学	発達心理学	2	2		
		教育・学校心理学	2	3		
		青年心理学	2	2		
	(g) 臨床心理学 人格心理学	感情・人格心理学	2	1		
		健康・医療心理学	(2)	2		1単位のみ認定
		発達臨床心理学Ⅰ	2	2		
		発達臨床心理学Ⅱ	2	2		
		カウンセリング	2	3		
		障害者・障害児心理学	2	3		
		精神疾患とその治療	(2)	3		1単位のみ認定
(h) 社会心理学 産業心理学	社会・集団・家族心理学	2	2			
	産業・組織心理学	2	3			
	家族心理学	2	1			
その他の科目	(i) その他の科目	心理学専門演習Ⅰ	2	3		
		心理学専門演習Ⅱ	2	3		
		心理学専門演習Ⅲ	2	4		
		心理学専門演習Ⅳ	2	4		
		卒業研究	(6)	4		卒業研究は6単位のうち4単位まで認定

「その他の科目」以外の各領域は「基本主題」と「副次主題」のいずれかに分類され、各領域で少なくとも2単位は「基本主題」に属する単位でなければならない。副次主題の科目については、備考欄に記載。副次主題の単位は1/2（例えば2単位の科目なら1単位）だけしか認められない。詳細については認定資格細則別表（日本心理学会発行）を参照すること。

認定心理士の申請について

認定心理士の資格認定を受けようとする者は、4年次の1月から3月に2度開かれる申請説明会のいずれかに出席すること。詳細については掲示します。

なお、資格審査料に10,000円、資格認定料に30,000円必要となります。

● 公認心理師試験受験資格要件（心理学科対象）

公認心理師試験受験資格を得るためには、公認心理師法（平成27年法律第68号）に規定する下記の開講科目の25科目を修得し、大学院において省令で定める科目を履修する（区分：法第7条1号）または、省令で定める期間に省令で定める施設において実務経験（区分：法第7条2号）が必要になります。

省令とは、公認心理師法施行規則（平成29年文部科学省・厚生労働省令第3号）において規定されています。

なお、履修に当たっては、次の事項に注意してください。

- ・全て資格取得における必修科目になります。
- ・「心理学概論」は、共通教育科目の選択科目に含めることができます。

公認心理師欄のⅠ～Ⅴは、公認心理師受験資格要件のための各領域を表します。

Ⅰ（②～⑥）：心理学基礎科目

Ⅱ（⑦～⑬）：心理学の基礎的理論に関する科目

Ⅲ（⑭,⑮,⑲及び⑳）：心理状態の観察及び分析並びに心理に関する相談、助言、指導、その他の援助等についての基本的理論及び実践に関する科目

Ⅳ（⑰～⑳）：主な職域における心理学に関する科目

Ⅴ（㉑,㉒）：心理学関連科目

①及び㉓については、公認心理師特有の科目

	指定科目	単位数	配当年次	提供元	備考
	① 公認心理師の職責	2	3		
Ⅰ	② 心理学概論	2	1	共通教育	
	③ 臨床心理学概論	2	1		
	④ 心理学研究法	2	2		
	⑤ 心理学統計法	2	2		
	⑥ 心理学実験	2	3		
	Ⅱ	⑦ 知覚・認知心理学	2	2	
⑧ 学習・言語心理学		2	2		
⑨ 感情・人格心理学		2	1		
⑩ 神経・生理心理学		2	3		
⑪ 社会・集団・家族心理学		2	2		
⑫ 発達心理学		2	2		
⑬ 障害者（児）心理学		2	3		
Ⅲ	⑭ 心理的アセスメント	2	3		
	⑮ 心理学的支援法	2	2		
Ⅳ	⑰ 健康・医療心理学	2	2		
	⑱ 福祉心理学	2	2		
	⑲ 教育・学校心理学	2	3		
	⑳ 司法・犯罪心理学	2	2		
	㉑ 産業・組織心理学	2	3		
Ⅴ	㉒ 人体の構造と機能及び疾病	2	3		
	㉓ 精神疾患とその治療	2	3		
	㉔ 関係行政論	2	3		
Ⅲ	㉕ 心理演習	2	3		
	㉖ 心理実習	2	3		

● 公認スポーツ指導者（ジュニアスポーツ教育学科対象）

本学ジュニアスポーツ教育学科は平成20年4月より公益財団法人日本体育協会（以下「日本体育協会」という。）公認スポーツ指導者養成カリキュラムの適応コースとして認可されました。取得できる資格は以下の①です。また②と③の受験資格を得ることができます。

これらの日本体育協会公認スポーツ指導者資格は、社会的に認知されたスポーツ指導者資格であり、教職、公務員、運動指導職において副次的に評価される、付加価値の高い専門資格です。

①スポーツリーダー

地域におけるスポーツグループやサークル等のリーダーとして基礎的なスポーツ指導や運営にあたる者です。日本体育協会が定める「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」（注）に対応する本学の科目（下表）を修得し、申請手続きをすると、日本体育協会より「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ修了証明書」が発行されます。この「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」は日本体育協会の公認専門指導者（コーチ・上級コーチ、教師・上級教師、アスレティックトレーナー等）資格取得の基礎となる必修要件科目ですので、修了証明を本学卒業時に得ることにより、将来日本体育協会公認スポーツ専門指導者資格を取得するための基礎的要件を満たすことになります。

（注）日本体育協会が定める「共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ」とは、スポーツ社会科学、スポーツ医科学の全関連領域にわたる科目で、他資格（ジュニアスポーツ指導員、アシスタントマネジャー等）取得の要件科目にもなっています。

②ジュニアスポーツ指導員（受験資格）

地域スポーツクラブ等において、幼・少年期子どもたち遊びを通じた身体づくり、動きづくりの指導を行う者です。この資格は下表に示した科目の単位を修得した後、日本体育協会実施の特別講習と検定試験を経て取得できます。この資格取得は中学校・高等学校教員免許状（保健体育）取得希望者に限ります。

③アシスタントマネジャー（受験資格）

地域スポーツクラブにおいてクラブ員が充実したクラブライフを送ることができるよう、組織経営のための諸活動をサポートする者です。この資格は下表に示した科目の単位を修得した後、日本体育協会実施の検定試験を経て取得できます。

資格取得における必修科目は○、選択科目は○

授業科目名	卒業要件としての単位		エクステンション 科目単位	配当 年次	資格要件			備 考
	必 修	選 択			スポーツ リーダー	ジュニア スポーツ	アシスタント マネジャー	
ジュニアスポーツ指導者論	2			3	○	○	○	〔共通科目Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ〕 （公財）日本体育協会が定める に対応する科目
ジュニアトレーニング論		2		2	○	○	○	
コーチング論		2		4	○	○	○	
安全救急法		2		3	○	○	○	
スポーツマネジメント総論		2		2	○	○	○	
スポーツ行政策論		2		2	○	○	○	
スポーツ生理学		2		2	○	○	○	
体力測定評価		2		2	○	○	○	
スポーツ医学		2		3	○	○	○	
スポーツ栄養学		2		2	○	○	○	
スポーツ原理		2		1	○	○	○	
スポーツ社会学		2		1	○	○	○	
スポーツ心理学		2		2	○	○	○	
スポーツバイオメカニクス		2		2	○	○	○	
スポーツ情報戦略論		2		3	○	○	○	
ジュニアスポーツ教育学総論	2			1		○		
ジュニアスポーツ実践	2			2		○		
バスケットボール		1		2		○		室内
バレーボール		1		2		○		
陸上運動		1		1		○		屋外
テニス		1		3		○		
ソフトボール		1		1		○		
サッカー		1		3		○		
水泳		1		1		○		
遠泳		1		1		○		
スキー		2		1		○		
保健体育科教育法Ⅳ			2	3		○		教職課程科目
教育実習Ⅰ（中等）			2	4		○		教職課程科目
地域スポーツ経営論Ⅰ		2		3			○	「Ⅰ」修得者に限る
地域スポーツ経営論Ⅱ		2		3			○	

※資格取得にあたっては、修了証明書発行料として①は10,800円、②・③はそれに加えて各3,240円（平成29年度実績）が必要となります。
 なお、②及び③については、それぞれ検定料（10,800円）及び登録料（新規13,000円、その後4年ごとに10,000円）が別途必要です。

● 公認障がい者スポーツ指導員（初級・中級）(ジュニアスポーツ教育学科対象)

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認の専門資格であり、障がい者の適性に応じたスポーツ・レクリエーションを通じて、健康の維持増進と競技力向上に寄与する責務を持った専門資格です。

初級指導員資格は身近な障がい者を対象とし、障がい者の障がい内容に基づいた健康や安全管理を重視し、スポーツの喜びや楽しさを理解させ、それらを生活化（習慣化）にむけて促進させる指導技術を習得した者に与えられます。

中級指導員資格は県内レベルの身近な障がい者スポーツの指導にあたる者で、障がい者の指導方法（専門的知識と高度な指導技術）に熟練した者に与えられます。

本学ジュニアスポーツ教育学科は平成20年4月より障がい者スポーツ指導員の養成認定校（大学）として認可されました。在学中に下表に示した科目の単位を修得し、卒業をもって初級指導員資格又は中級指導員資格を得ることができます。（ただし、中級は指導実績＜約10日、80時間＞が必要です。）

これらの資格取得者は卒業後、教職、福祉系公務員、福祉系施設職員等としての活躍が期待されます。障がい者スポーツ指導員資格は、中高保健体育教職や公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者資格と併せて取得する事で将来の選択肢が広がります。

○ジュニアスポーツ教育学科生対象

資格取得における必修科目は◎

授 業 科 目	卒業要件としての単位		配当年次	資格要件		備 考
	必 修	選 択		初 級	中 級	
スポーツ生理学		2	2	◎	◎	
スポーツ心理学		2	2	◎	◎	
スポーツ医学		2	3	◎	◎	
陸上運動		1	1		◎	
水泳		1	1		◎	
ソフトボール		1	1		◎	
スポーツ社会学		2	1	◎	◎	
ジュニアスポーツ指導者論		2	3	◎	◎	
生涯スポーツ実技演習		2	4	◎	◎	

※指導実績＜中級80時間（約10日）＞が必要となります。指導実績とは、障がい者スポーツイベント及び障がい者スポーツ施設でのボランティア等の指導実績を指します。

※資格取得にあたっては、認定料・申請手数料5,500円、年会費（毎年3,800円）（平成29年度実績）が必要となります。

● 健康運動実践指導者受験資格（ジュニアスポーツ教育学科対象）

健康運動実践指導者とは、健康づくりのための運動実践指導のエキスパートとして、地域社会での健康運動指導を行うことが出来ると認められるための資格です。健康運動実践指導者には、医学的な基礎知識、運動生理学の知識などに立脚した補強運動の実践指導が求められます。具体的には、健康づくりを目的に作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビック・ダンス、ストレッチング、筋力・筋持久力トレーニングといった補強運動の実践指導を行います。

本学が開講する下記の科目を修得し、公益財団法人健康・体力づくり事業財団が実施する認定試験に合格すれば、健康運動実践指導者の資格を取得することができます。資格取得後は、保健所や病院、老人福祉施設、民間健康増進施設等での活躍が期待されます。

資格取得における必修科目は◎

授 業 科 目	卒業要件としての単位		配当年次	資格要件	備 考
	必 修	選 択		必 修	
医学一般		2	3	◎	
スポーツ生理学		2	2	◎	
スポーツバイオメカニクス		2	2	◎	
スポーツ栄養学		2	2	◎	
スポーツ心理学		2	2	◎	
体力測定評価		2	2	◎	
スポーツ医学		2	3	◎	
陸上運動		1	1	◎	
水泳		1	1	◎	
エアロビックダンス		1	3	◎	
健康運動実践		2	1	◎	

● 社会福祉主事（任用資格）（全学科対象）

社会福祉主事任用資格は、大学において以下のような「社会福祉主事の資格に関する指定科目」を修めて卒業した者が、都道府県、市町村の行政職や福祉職等の公務員試験に合格して、福祉事務所等のケースワーカーに採用される場合にいきってくる資格であり、いわゆる任用資格とされるものです。

また、最近では、老人福祉施設や児童福祉施設などの指導員や社会福祉協議会の福祉活動専門員もこの資格を取得することが望ましいとされています。

<社会福祉主事に関する科目指定>（平成21年度以降入学生から適用）

社会福祉概論、社会福祉事業史、社会福祉援助技術論、社会福祉調査論、社会福祉施設経営論、社会福祉行政論、社会保障論、公的扶助論、児童福祉論、家庭福祉論、保育理論、身体障害者福祉論、知的障害者福祉論、精神障害者保健福祉論、老人福祉論、医療社会事業論、地域福祉論、法学、民法、行政法、経済学、社会政策、経済政策、心理学、社会学、教育学、倫理学、公衆衛生学、医学一般、リハビリテーション論、看護学、介護概論、栄養学、家政学

<指定科目の読み替えの範囲とする本学開講科目>

平成21年度以降入学生に対しては、平成20年7月31日社援発第0731002号 厚生労働省社会・援護局長通知にて、指定科目の読み替え範囲が示されましたが、その範囲とする本学の開講科目は次頁のとおりです。

読み替え科目【本学開講科目】の単位をそれぞれの「指定科目」から1科目（複数科目ある場合はすべて）以上を修得し、資格に関する指定科目として3科目以上の単位を修得すること。本学開講科目から3科目ではなく、指定科目から3科目修得しなければなりません。

※福祉臨床学科の全学生及び児童教育学科で保育士資格を取得する学生は、本資格の科目を修得したことになります。

社会福祉主事読み替え科目一覧

指定科目	読み替え科目【本学開講科目】	科目区分又は開設学科	履修可能な他学科
社会福祉概論	社会福祉論	児童教育学科	×
	社会福祉概論Ⅰ、社会福祉概論Ⅱ	福祉臨床学科	×
社会福祉事業史	—	—	—
社会福祉援助技術論	社会福祉援助技術論Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅱ、 社会福祉援助技術論Ⅲ、社会福祉援助技術論Ⅳ	福祉臨床学科	×
社会福祉調査論	社会調査の基礎	福祉臨床学科	×
社会福祉施設経営論	福祉サービスの組織と経営	福祉臨床学科	×
社会福祉行政論	福祉行財政と福祉計画	福祉臨床学科	×
社会保障論	社会保障論Ⅰ、社会保障論Ⅱ	福祉臨床学科	×
公的扶助論	公的扶助論	福祉臨床学科	×
児童福祉論	児童福祉論	児童教育学科、福祉臨床学科	△心理
家庭福祉論	家族援助論	児童教育学科、福祉臨床学科	×
保育理論	保育原理	児童教育学科、福祉臨床学科	×
身体障害者福祉論	障害者福祉論（※1）	福祉臨床学科	△心理
知的障害者福祉論			
精神障害者保健福祉論	—	心理学科	×
老人福祉論	老人福祉論	福祉臨床学科	△心理
医療社会事業論	—	—	—
地域福祉論	地域福祉論Ⅰ（※2）、地域福祉論Ⅱ	福祉臨床学科	×
法学	法学	共通教育科目	全学科
民法	—	—	—
行政法	—	—	—
経済学	経済学	共通教育科目	全学科
社会政策	—	—	—
経済政策	—	—	—
心理学	心理学概論	共通教育科目	全学科
社会学	社会学	共通教育科目	全学科
教育学	—	—	—
倫理学	—	—	—
公衆衛生学	公衆衛生学	ジュニアスポーツ教育学科	×
医学一般	医学一般	福祉臨床学科、ジュニアスポーツ教育学科	△心理
リハビリテーション論	—	—	—
看護学	—	—	—
介護概論	介護概論	福祉臨床学科	×
栄養学	栄養学	共通教育科目	全学科
家政学	—	—	—

△心理学科はエクステンション科目として履修可

網掛け部分の科目は、枠内すべての科目を修得することで、指定科目1科目を修得したことになります。

※1 「障害者福祉論」を修得した場合、左記指定科目の1科目分を修得したことになります（左記の2科目両方を修得したことはありませんので、ご注意ください）。

※2 「地域福祉論Ⅰ」は、エクステンション科目として心理学科でも履修できる科目ですが、「地域福祉論Ⅱ」と合わせて修得する必要がありますので、福祉臨床学科の学生しか修得出来ません。